

科目名	デザイン	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期		形態	演習	
教員名	村山 利幸				
クラス名					

授業目的と到達目標

デザインの役割を理解し、基礎となる平面構成・色彩構成及び視覚伝達の方法を、課題課題のデザイン制作を通じて学習します

授業概要

課題はブックデザイン・企業・商品のブランディング・演出などを企画・作成しデザインしていきます。それら制作項目の中にあるグラフィックの要素であるロゴマークやタイポグラフィ、パッケージアイデア、広告アイデアなどをラフスケッチから制作し、最終はパソコンにて制作します。デザイン制作のソフト・アプリケーションの習得を目指します。デザインの役割であるコミュニケーションを効果的に表現し、内容を伝える。その事をデザイン制作を通じて学習します。

準備学修(予習・復習)・受講上の注意

それぞれの課題において 事前にブックデザイン・ポスターデザインなど表現事例を調べ、観察。そのデザインの目的を考察する

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
ビジュアル表現、技術力	
プレゼンテーション	
課題への取り組み、受講姿勢	

教科書

教科書1	
出版社名	著者名
教科書2	
出版社名	著者名
教科書3	
出版社名	著者名

参考書・参考文献

参考書名1	
出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名

参考 URL

特記事項

参考書はないが、それに変わるプリントを配布する

教員実務経験

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前期・後期の授業の時間割を説明。 デザインの役割を説明。 パソコンの使用方法を説明。 課題-1 ◎平面構成-1 タングラム。 タングラムの制作
2	課題 2 ◎平面構成-2 ユニットによる構成の制作-1
3	課題 2 ◎平面構成-2 ユニットによる構成の制作-2
4	◎平面構成-3 面の分割・構成 制作面の分割方法の説明
5	◎平面構成-3 面の分割・構成 制作-2
6	面の分割・構成-応用、表現 課題-3 音楽コンサートポスターの制作 ●作成 1
7	課題-4 ◎平面構成-3 面の分割・構成-応用 ポスター制作
8	課題-4 ◎平面構成-3 面の分割 ・構成-応用ポスター制作 2
9	課題-4 ◎平面構成-3 面の分割・構成-応用 ポスター制作 3
10	課題-5 ◎ブック・デザイン 課題説明 ・アイデアラフ作成
11	◎ブック・デザイン-2 ・アイデアラフ提出 ・表紙デザイン・表紙イメージ作成 ・タイトルロゴ作成
12	◎ブック・デザイン-3 ・表紙 ・イメージビジュアル作成 -1
13	◎ブック・デザイン-4 ・表紙 ・イメージビジュアル作成 -2
14	◎ブック・デザイン-5 ・表紙 ・イメージビジュアル作成 -3
15	◎ブック・デザイン-6

	<ul style="list-style-type: none"> ・本文デザイン ・6~8P 作成
16	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブック・デザイン-6 ・本文デザイン ・6~8P 作成
17	<ul style="list-style-type: none"> 課題-6 ◎文字のデザイン-1 伝えるために生まれた文字のデザイン 意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン 文字のデザインカレンダーを作成
18	<ul style="list-style-type: none"> ◎文字のデザイン-2 伝えるために生まれた文字のデザイン 意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン 文字のデザインカレンダーを作成
19	<ul style="list-style-type: none"> ◎文字のデザイン-3 伝えるために生まれた文字のデザイン 意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン 文字のデザインカレンダーを作成
20	<ul style="list-style-type: none"> ◎文字のデザイン-4 伝えるために生まれた文字のデザイン 意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン 文字のデザインカレンダーを作成
21	<ul style="list-style-type: none"> ◎文字のデザイン-5 伝えるために生まれた文字のデザイン 意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン
22	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-1 ・ネーミング ・ロゴタイプ マーク コンセプトに基づいてアイテムのデザイン展開 作成 ・パッケージデザイン ・広告 ・WEB ・販促ツール ETC
23	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-2 各ツールデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
24	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-3 各ツールデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
25	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-4 各ツールデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
26	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-5 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
27	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-6 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
28	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-7 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
29	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-8 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
30	<ul style="list-style-type: none"> ◎ブランディング・デザイン-9 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開・作成・完成 提出

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	水野 年彦、釜本 幸治				
クラス名	18以降生・金属工芸クラス				
授業目的と到達目標					
金属工芸において重要である金属素材の特性を理解し、それに応じた加工技法(切る、曲げる、接合)や表現方法を学びます。それに加え、造形性だけではなく「使える事」の大切さも考慮しながら制作する事を学びます。金属工芸における基本的な「彫金技法」「鍛金技法」を、制作を通して理解し習得する事を目標とします。					
授業概要					
<p>前半 3 回は「彫金技法」を用いて「真鍮」を素材に箱を制作します。 図柄をデザインし真鍮板に金属用の糸鋸を使って透かし紋様を施し箱を組み立てる接合に半田付けを行います。</p> <p>後半 3 回は「鍛金技法」を用いて「アルミニウム」を素材にお皿やコップ・食器か動物のどちらかを選択して制作します。アルミを火で炙り加工しやすくし(焼きなまし)、デザインを元に制作していきます。当て金や金鍍を使い「鍛金技法」の基礎を習得していきます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>私たちはたくさんの金属に囲まれて生活しています。それは構造物、機械、道具、美術品、日用品であったりと多種多様に存在しています。それはどんな種類の金属なのか?どんな加工を通して生産されたのか?想像してみてください。授業のなかで発表してもらいます。授業回数が少ないので遅刻、欠席は厳禁。作業ができる服装でのぞむ事。(バーナーや道具を使用します)筆記用具、軍手、ボロ布(綿素材)を持参。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品及び作品構想			60		
授業に取り組む姿勢			40		
教科書					
教科書 1					
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名 1	鍛金の実際				
出版社名	株式会社美術出版社	著者名	山下恒雄・石川充宏・安藤泉		
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
{鍛金の技法, https://www.jstage.jst.go.jp/article/sfj/70/5/70_260/_pdf/-char/ja }	
特記事項	
教員実務経験	
鑄金作家と金属造形作家が豊富な制作経験を生かして様々なタイプの作品に対応した指導をします。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1日目「真鍮箱」箱の形・透かし模様アイデアスケッチ
2	1日目「真鍮箱」箱の形・透かし模様アイデアスケッチ
3	1日目 厚紙を用い実寸サイズのマケットを制作
4	1日目 厚紙を用い実寸サイズのマケットを制作
5	1日目 糸鋸を使い真鍮を切り出す
6	2日目 糸鋸を使い真鍮を切り出す
7	2日目 糸鋸を使い透かし模様を切り抜く
8	2日目 糸鋸を使い透かし模様を切り抜く
9	2日目 形を削り整えた後、折り曲げ加工
10	2日目 形を削り整えた後、折り曲げ加工
11	3日目 半田付けによる組み立て
12	3日目 半田付けによる組み立て
13	3日目 仕上げの研磨
14	3日目 仕上げの研磨
15	3日目 合評:学生による作品説明と教員の講評
16	【対面】4日目 「コップ・お皿」・「動物」のアイデアスケッチ
17	【対面】4日目 「コップ・お皿」・「動物」のアイデアスケッチ
18	【対面】4日目 「コップ・お皿」地金の取り方を考える。「動物」ケント紙で動物の展開図を考える。
19	【対面】4日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い叩きながら加工する。
20	【対面】4日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い叩きながら加工する。
21	【対面】5日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い叩きながら加工する。表面を仕上げ打ち。
22	【対面】5日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い叩きながら加工する。表面を仕上げ打ち。
23	【対面】5日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い叩きながら加工する。表面を仕上げ打ち。形を切り整える。
24	【対面】5日目 「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い叩きながら加工する。表面を仕上げ打ち。形を切り整える。
25	【対面】5日目 「アルミ」の加工。表面を仕上げ打ち。形を切り整える。苛性ソーダで汚れを取る。
26	【対面】6日目 「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーンなどを制作。
27	【対面】6日目 「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーンなどを制作。
28	【対面】6日目 「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーンなどを制作。
29	【対面】6日目 「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーンなどを制作。

30	【対面】6日目 「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーンなどを制作。 合評 学生による作品説明、教員の講評
----	--

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	三木 陽子、南野 馨				
クラス名	18生・陶芸クラス				
授業目的と到達目標					
やきものを制作する上で必要とされる基礎的知識と技術を習得するとともに、実際の制作を通じて素材への理解を深め、楽しさや難しさを体感し、表現力を発展させる。					
授業概要					
陶芸作品制作に使用する「土」の扱いかたと焼成(完成)までに必要なプロセスの基本を習得するために、造形的表現における重要技法である「手びねり成形」と石膏型を利用した制作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・手びねり技法を用いた造形作品制作 ・化粧土による加飾 ・石膏型制作 ・タタラ技法と石膏型による器制作・色絵具による加飾 ・施釉、焼成 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
短期間に成形から焼成までを行うため、全期間の出席が求められます。 受講中は制作に相応しい服装等で臨んでください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品評価			70		
授業に向かう姿勢			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>三木 陽子／陶芸作家・造形作家／他大学では教科教育法(図工)を指導。また中学校美術講師・高等学校美術工芸講師の実務経験を持ち、それらの経験を活かし、指導を行う。</p> <p>南野 馨／陶芸作家・造形作家／作家活動や幾つかの陶芸教育機関での勤務経験を活かし、陶芸全般の技術と表現を習得させる。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	一日目土練り		
2	一日目手びねり技法を用いた成形		
3	一日目手びねり技法を用いた成形		
4	一日目手びねり技法を用いた成形		
5	一日目手びねり技法を用いた成形		
6	二日目化粧土による加飾		
7	二日目化粧土による加飾		
8	二日目化粧土による加飾		
9	二日目化粧土による加飾		
10	二日目化粧土による加飾		
11	三日目石膏型制作		
12	三日目石膏型制作		
13	三日目石膏型制作		
14	三日目石膏型制作		
15	三日目石膏型制作		
16	四日目タタラ技法と石膏型による器制作		
17	四日目タタラ技法と石膏型による器制作		
18	四日目タタラ技法と石膏型による器制作		
19	四日目タタラ技法と石膏型による器制作		
20	四日目タタラ技法と石膏型による器制作		
21	五日目色絵具による加飾施釉、焼成		
22	五日目色絵具による加飾施釉、焼成		
23	五日目色絵具による加飾施釉、焼成		
24	五日目色絵具による加飾施釉、焼成		
25	五日目色絵具による加飾施釉、焼成		
26	六日目施釉、焼成		
27	六日目施釉、焼成		
28	六日目施釉、焼成		
29	六日目施釉、焼成		
30	六日目施釉、焼成		

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	井上 剛				
クラス名	18生・ガラス工芸クラス				
授業目的と到達目標					
<p>素材と技術を基にした「工芸」としてのものづくりを、その歴史、素材概要などの基礎知識と、各技法の実習を通して学習する。 ガラス工芸の基礎技法について、実作業を経験し、素材からモノができるまでのプロセスを理解する。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】</p> <p>1) ホットワーカー吹きガラスの成形行程を理解し、器物を制作することで、用についての理解を深める。 2) キルンワーカー電気炉を用いた制作技法を実践する。ガラス素材の特性についての理解を深める。 3) コールドワーカー様々なガラスの加工方法を理解し、基礎技術を習得する。また、素材を組み合わせで造形を試みる。 教員は、各技法で制作してきた経験を活かし、ガラス工芸全般について総合的に指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
ガラス工芸技法の種別などについて事前調査					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題制作提出物(素材と技術の理解と習得)			80		
その他の提出物(理解と習熟の度合い)			20		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
自身の作品制作と並行して、プロダクトデザイナー、建築家、アーティストや企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作経験してきたガラス作家・ガラス工芸家として、また高等学校をはじめ複数の教育機関にて教壇に立った経験と合わせて、実践的な実習授業とする	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1 日目 授業ガイダンスガラス工芸の概要／作業
2	1 日目 キルンワーク(フュージング)1「技法と制作行程の説明」
3	1 日目 キルンワーク(フュージング)2「色板ガラスのカットと成形」
4	1 日目 キルンワーク(フュージング)3「色板ガラスのカットと成形」
5	1 日目 キルンワーク(フュージング)4「素材特性の説明と窯入れ作業」
6	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト)1「粘土原型の制作」
7	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト)2「石膏型の制作」
8	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト)3「ガラス材料の選択と充填」
9	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト)4「焼成準備と窯入れ」
10	2 日目 キルンワーク(キルンキャスト)4「焼成管理とプログラミング」
11	3 日目 ホットワーク(吹きガラス)1 「吹きガラス概要説明」
12	3 日目 ホットワーク(吹きガラス)2 「設備・機材の説明」
13	3 日目 ホットワーク(吹きガラス)3 「作業の注意と工房での立ち振る舞い」
14	3 日目 ホットワーク(吹きガラス)4 「デモンストレーションー道具の扱いとガラスの巻き取り」
15	3 日目 ホットワーク(吹きガラス)5 「デモンストレーションーペーパーウエイトのつくり方」
16	4 日目 ホットワーク(吹きガラス)6 「デモンストレーションータンブラーのつくり方」
17	4 日目 ホットワーク(吹きガラス)7 「制作作業ータンブラー」
18	4 日目 ホットワーク(吹きガラス)8 「デモンストレーションータンブラー制作のポイント」

19	4日目 ホットワーク(吹きガラス)9「制作作業ータンブラー」
20	4日目 ホットワーク(吹きガラス)10「デモンストレーションー作業行程のおさらい」
21	5日目 バーナーワーク1「とんぼ玉の基礎」
22	5日目 バーナーワーク2「とんぼ玉の装飾」
23	5日目 バーナーワーク3「とんぼ玉の応用」
24	5日目 バーナーワーク4「酸素バーナーによる制作1」
25	5日目 バーナーワーク5「酸素バーナーによる制作2」
26	6日目 コールドワーク1「ガラス加工法の概要」
27	6日目 コールドワーク2「デモンストレーションー加工仕上げ」
28	6日目 コールドワーク3「研磨加工／作品仕上げ作業」
29	6日目 授業のまとめ
30	6日目 合評会と意見交換

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	舘 正明、高橋 亜希				
クラス名	17以前・テキスタイル・染織クラス				
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある工芸作家や職人の育成に基づき、染織技法の習得を目指す。 型染め独自の素材や工程を通して染色分野の理解を目的とし、その制作によってプロセス及び技術の習得を目標とする。(舘)織物を通じて素材(布)の特性を理解し、生地構成を知ることが目的とし、自由な精神・創造性に則り、マフラーをデザインし、実用も兼ね備えたオリジナルの1点を制作することを目標とする。(高橋)</p>					
授業概要					
<p>白黒草稿、リピート図案化、型彫り、糊置き、染色といった型染めの基本的な工程による染色作品の制作を行う。(舘) マフラーのデザイン(実際には織物の基本となる平織りによる生地制作)その後仕上げまで行い、着用して合評する。(高橋)</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>持ち物(舘):カッターナイフ、定規、彩色筆(2、3本)絵の具皿(もしくはパレット)、スティック糊、マスキングテープ(幅20mm前後) 持ち物(高橋):スケッチブック・筆記用具・色鉛筆・はさみ</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品評価			70		
作品構想評価			30		
教科書					
教科書1	適宜必要な資料を配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	染めを学ぶ				
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
(館)染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色技法について指導する。(高橋)染織の教員が作家活動、織物指導、自身のブランドのデザイン・制作の経験を生かして織物の基礎からデザイン・発想などの自由な考え方についてまでの指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1日目(館)課題説明、テーマに添ったドローイング①		
2	1日目(館)テーマに添ったドローイング②		
3	1日目(館)ドローイングの再構成		
4	1日目(館)再構成したものを白黒草稿及びリピート図案へ展開		
5	1日目(館)型彫り(糊型染め用)		
6	2日目(館)糊置き①		
7	2日目(館)型彫り(ステンシル型染め用)		
8	2日目(館)染料制作		
9	2日目(館)ステンシル型染めの染色①		
10	2日目(館)糊型染めの地入れ		
11	3日目(館)糊型染めの染色①		
12	3日目(館)ステンシル型染めの染色②		
13	3日目(館)染料の定着		
14	3日目(館)糊を落とし、布を洗う		
15	3日目(館)合評		
16	1日目(高橋)課題説明		
17	1日目(高橋)デザイン		
18	1日目(高橋)デザイン		
19	1日目(高橋)デザインを基に織物計画		
20	1日目(高橋)たて糸準備・機仕掛け		
21	2日目(高橋)よこ糸準備		
22	2日目(高橋)織る		
23	2日目(高橋)織る		
24	2日目(高橋)織る		
25	2日目(高橋)織る		
26	3日目(高橋)織る		
27	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ		
28	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ		
29	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ		
30	3日目(高橋)合評		

科目名	工芸Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	井上 剛				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>素材と技術を基にした「工芸」としてのものづくりを、その歴史、素材概要などの基礎知識と、各技法の実習を通して学習する。 ガラス工芸の基礎技法について、実作業を経験し、素材からモノができるまでのプロセスを理解する。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】1) ホットワークー吹きガラスの成形行程を理解し、器物を制作することで、用についての理解を深める。 2) キルンワークー電気炉を用いた制作技法を実践する。ガラス素材の特性についての理解を深める。 3) コールドワークー様々なガラスの加工方法を理解し、基礎技術を習得する。また、素材を組み合わせて造形を試みる。 教員は、各技法で制作してきた経験を活かし、ガラス工芸全般について総合的に指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各ガラス工芸技法などについて事前リサーチ					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 日目 授業ガイダンスガラス工芸の概要／作業		
2	1 日目 キルンワーク(フュージング)技法と制作行程の説明／色板ガラスのカットと成形／素材特性の説明と窯入れ作業		
3	1 日目 キルンワーク(キルンキャスト)粘土原型の制作		
4	1 日目 キルンワーク(キルンキャスト)石膏型の制作／ガラス材料の選択と充填		
5	1 日目 キルンワーク(キルンキャスト)焼成準備と窯入れ／焼成管理とプログラミング		
6	2 日目 ホットワーク(吹きガラス)吹きガラス概要・設備・機材の説明／作業の注意と工房での立ち振る舞い／道具の扱いとガラスの巻き取り		
7	2 日目 ホットワーク(吹きガラス)ペーパーウエイトのつくり方		
8	2 日目 ホットワーク(吹きガラス)タンブラーのつくり方		
9	2 日目 ホットワーク(吹きガラス)制作作業ータンブラー		
10	2 日目 ホットワーク(吹きガラス)制作作業ー色ガラスを使って		
11	3 日目 バーナーワーク(エアバーナー)とんぼ玉の基礎		
12	3 日目 バーナーワーク(エアバーナー)とんぼ玉の制作		
13	3 日目 コールドワークガラス加工法の基礎		
14	3 日目 コールドワークガラス加工の実践／作品仕上げ		
15	3 日目 講評会と授業のまとめ		

科目名	油画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2026 年度 前期	形態	実習		
教員名	寺尾 佳子、山本 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>制作を通して油絵具の特性を理解する。 対象の持つ「形・色・空間・構造など」を観察し、感じたものを絵画表現に結び付ける。 合評を通して、作品の鑑賞力、批評力を高めるとともにそれらを言葉にする力を養う。</p>					
授業概要					
制作を通して絵画表現の要素としての「色彩」「形態」「空間」「構造」などを理解する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
油彩の技法及び油彩道具に関する知識を事前に学んでおくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			1		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
作家である各教員が、多数の作品を制作してきた経験を活かして、油彩を描くための方法や技術について指導を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス 油画実習Ⅰについて(授業日程など)
2	課題Ⅰ「静物」木炭デッサン①
3	課題Ⅰ「静物」木炭デッサン②
4	課題Ⅱ「静物」油彩①
5	課題Ⅲ「自画像」油彩①
6	課題Ⅲ「自画像」油彩②
7	課題Ⅲ「自画像」油彩③・合評
8	課題Ⅱ「静物」油彩②
9	課題Ⅳ「自画像」表現研究(表現素材、技法など)①
10	課題Ⅳ「自画像」表現研究(表現素材、技法など)②
11	課題Ⅳ「自画像」表現研究(表現素材、技法など)③・合評
12	課題Ⅱ「静物」油彩③・合評
13	キャンバス張り(F20号) クロッキー
14	課題Ⅴ モデル実習「人物」木炭デッサン①
15	課題Ⅴ モデル実習「人物」木炭デッサン②
16	課題Ⅴ モデル実習「人物」油彩①
17	課題Ⅴ モデル実習「人物」油彩②
18	課題Ⅴ モデル実習「人物」油彩③
19	モデル実習「人物」水彩
20	課題Ⅴ モデル実習「人物」油彩④
21	課題Ⅴ モデル実習「人物」油彩⑤
22	合評・採点
23	<p>< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサーポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサーポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。</p>

科目名	日本画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2026 年度 後期	形態	実習		
教員名	諸星 美喜、長谷川 雅也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神に基づき、日本画の伝統的技法および精神を習得し、時代や国境、文化を超えたコミュニケーションとしての【新しい日本画】を創造する画家や、美術に携わる人材を広く育成することを目的とする。</p> <p>①日本画制作の基礎知識(素材、道具、制作手順など)を習得します。</p> <p>②制作の基礎となる写生(デッサン)の重要性を学び、観察力や表現力の向上を計ります。</p> <p>③水干絵の具や岩絵の具、金属箔による制作を通し、日本画独特の画材や表現への興味を育みます。</p>					
授業概要					
<p>モチーフへの素直な観察に基づいた写生(デッサン)を軸として、日本画材料や道具、制作工程についての知識と経験の獲得をめざします。また古典研究課題や作品見本、現代作家の紹介を行い、日本画独特の表現の可能性を考えます。</p> <p>教員の画家活動の源泉である素描やスケッチの経験を活かし、写生のスキルや制作への展開方法の習得をめざします。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・各課題で必要な画材を事前にお知らせしますので、持参して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70		
制作姿勢			30		
教科書					
教科書1	適宜授業内でプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
諸星美喜の実務経験について [諸星美喜オフィシャルサイト, https://www.mikimorohoshi.com] [公益社団法人 日展, https://nitten.or.jp/artwork/exh191093] [大阪芸術大 学, https://www.osakageidai.ac.jp/geidai//research/laboratory/bulletin/pdf/kiyou41/geijutsu41_3.pdf]			
特記事項			
教員実務経験			
諸星美喜: 日本画家(日展会員)、長谷川雅也: 日本画家(日展会員) 日展会員の日本画家の教員が、京都画壇で学んだ写生重視の精神を活かし、日本画の基礎となる観察力と描写力を習得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン1		
2	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサン2		
3	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1		
4	日本画制作①「鳥の剥製」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2		
5	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写1		
6	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写2		
7	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写3		
8	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写4		
9	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写5		
10	日本画制作①「鳥の剥製」 彩色描写6 仕上げ		
11	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 鉛筆デッサンと下地作成1		
12	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 鉛筆デッサンと下地作成2		
13	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 鉛筆デッサンと下地作成3		
14	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1		
15	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2		
16	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 彩色描写1		
17	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 彩色描写2		
18	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 彩色描写3		
19	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 彩色描写4		
20	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 彩色描写5		
21	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」 彩色描写6 仕上げ		
22	合評 日本画制作①と②、各デッサンを合わせて講評会を実施		
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサーポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサーポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学		

	「大学生生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。
--	--

科目名	版画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2026 年度 後期	形態	実習		
教員名	森本 由貴子、梅田 美里				
クラス名					
授業目的と到達目標					
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。					
授業概要					
版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
欠席時は教員にユニパの Q&A で連絡し、次回の実習について確認する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70		
制作への取り組み			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

<p>森本由貴子.版画家、梅田美里.版画家 版画家である教員が、作品制作発表を通じて得た作家としての様々な経験を活かし、版画の技法を習得させ、 沢山の作品を見せながら、広がりのある多くの版画表現を指導する。</p>	
<p>授業計画(各回予定)</p>	
授業回	授業内容
1	1 校内案内 銅版画説明 エスキース
2	2 ラフスケッチ・孔版画説明・ステンシル制作
3	3 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント)製版
4	4 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント)製版
5	5 孔版(シルクスクリーン)下絵・製版
6	6 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント)製版
7	7 銅版画 1 作目刷り
8	8 孔版(シルクスクリーン)製版・刷り
9	9 銅版画 1 作目を踏まえ、2 作目の目標設定エスキース 製版
10	10 銅版画 2 作目
11	11 孔版(シルクスクリーン)製版・刷り
12	12 銅版画 2 作目 製版 版画コースの見学①
13	13 銅版画 2 作目 製版 版画コースの見学②
14	14 凸版説明・下絵作成
15	15 銅版画 2 作目 刷り
16	16 平版説明 エスキース 博物館の版画作品のビューイング
17	17 凸版 彫り・摺り
18	18 平版描画
19	19 平版描画 製版
20	20 凸版仕上げ 合評(孔版・凸版)
21	21 平版 刷り
22	22 課題作品の合評 ※ 火曜日、木曜日、金曜日通して22回の授業があります。
23	<p>< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム ・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。</p>

科目名	彫刻実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2026 年度前期	形態	実習		
教員名	本多紀朗、紺谷武、吉居寛子				
クラス名	火曜日(紺谷担当)、木曜日(吉居担当)、金曜日(本多担当)				
授業目的と到達目標					
立体表現に必要な基本的な造形要素の技術的習得を目標として、アカデミックな表現を実践し、さらにその展開の可能性を引き出したい。					
授業概要					
モデリング技法による具象的表現と、カービング技法による抽象的作品を課題として制作する。高い密度と完成度を期待する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
3分の2以上の出席をすること。中品程度の大きさの作品であること。汚れてもよい服装と、適当な大きさのスケッチブックと鉛筆等の準備をする。遅刻をしないこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の評価			60		
出席、作品に取り組む姿勢			40		
教科書					
教科書1	なし。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	なし。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

本多紀朗彫刻家の教員が、数多くの制作発表と社会活動を行ってきた経験を活かし、造形の基礎力と表現力を修得させる。

吉居寛子彫刻家として作品を制作してきた経験を活かし、彫刻への興味関心を深め造形の基礎力を養うことを目指す。

紺谷武彫刻家として培ってきた経験を活かし、彫刻の奥深さを伝えながら、基礎的な彫刻技術を指導する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1)初年次教育、課題A デッサン、課題B デッサン
2	2)課題A デッサン、課題B デッサン
3	3)課題A デッサン、課題B デッサン・マーケット
4	4)課題A 心材作り・土付け、課題B 型枠を造る。石膏流し込み
5	5)課題A 土付け、課題B 型枠を造る。石膏流し込み
6	6)課題A 土付け、課題B 荒彫り
7	7)課題A 土付け、課題B 荒彫り
8	8)課題A 土付け、課題B 荒彫り
9	9)課題A 土付け、課題B 荒彫り
10	10)課題A 土付け、課題B 中彫り
11	11)課題A 土付け、課題B 中彫り
12	12)課題A 土付け(完成)、課題B 中彫り
13	13)課題A 石膏型取り、課題B 仕上げ彫り
14	14)課題A 石膏型取り、課題B 仕上げ彫り
15	15)課題A 石膏型取り、課題B 仕上げ彫り(完成)
16	16)課題A 型に石膏張り込み
17	17)課題A 型に石膏張り込み
18	18)課題A 型割出し
19	19)課題A 割出し、修正
20	20)課題A 修正
21	21)課題A 修正(完成)
22	22)面談
23	23)面談 < 初年次教育 > 初回授業防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサーポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサーポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	絵画概論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	泉谷淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>テーマに掲げる「絵画の可能性と多様性」に多面的にアプローチし、絵画への理解を深めるとともに、美術の制作に役立つ鑑賞力を養うのが授業目的である。授業を通して、鑑賞力に含まれる芸術的感受力、内容読解力、造形的思考力、総合的批評力、発展的着想力を高めていくのが到達目標となる。</p>					
授業概要					
<p>西洋絵画、日本絵画、前衛絵画、身近な絵画を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショー等で提示して、「考えながら見る」習慣を徐々に身につけさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>事前に予備知識を入れる必要はないが、とにかく授業に集中して参加し、気づいたことや考えたことをメモする習慣を着け、レポート作成に備える姿勢が望まれる。ネットなどに上がっている知識は、誰でも入手できるのであまり評価されない。なお、テキストは事前に購入しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前半と後半の授業の中から3つの授業を選んで行う2回の「授業のまとめ」レポート			80		
授業に取り組む姿勢			20		
教科書					
教科書1	美との対話－鑑賞への誘い－				
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	鑑賞ガイドブック・日本美術 101、鑑賞ガイドブック・西洋美術 101				
出版社名	三元社	著者名	神林恒道、新関伸也、泉谷淑夫他		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
<p>全部の講義に出席していても、2回の「授業のまとめレポート」の記述内容から著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。またレポートに授業内容と関係のない内容をたくさん書いても評価されません。各レポートの合格ラインは60%です。</p>	
教員実務経験	
<p>教員は長年にわたって絵画制作・発表と並行して、実践的な鑑賞教育について研究し、著書や論文も著している。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:スライドショーによる授業者の絵画制作紹介と絵画制作における鑑賞の重要性についての講義
2	社会における美術の役割 TVドラマの録画視聴とスライドショーによる物語の構造分析
3	制作のモチーフとテーマの追求北斎の「大波」の変遷と真髓 90年に渡り絵画の創造に取り組んだ浮世絵師・北斎が生涯のテーマとした「大波」の表現にフォーカスし、その発祥と変遷、「大波」に隠された北斎芸術の真髓を、代表作《神奈川沖浪裏》や「幻の大波」を中心に、豊富な視覚的資料を活用して探っていく。
4	個性の確立と展開①ゴッホとラーション同年生まれで共に日本美術の影響を受けたゴッホとラーションの対照的な人生と画業をスライドショーで比較鑑賞し、両者が到達した個性豊かな絵の世界を味わうとともに、それぞれの魅力を探っていく。
5	個性の確立と展開②アンリ・ルソー日曜画家としてフランス画壇にデビューし、「稚拙な画家」として人々から嘲笑されたルソーが、素朴派の元祖としてピカソに高く評価されるようになった理由を、日本の画家たちにも多くの影響を与えた風景画や代表作のジャングル風景などから探っていく。
6	個性の確立と展開③フジタと戦争エコール・ド・パリの寵児となったフジタの異国の地での個性の確立と展開の過程をスライドショーで辿り、「乳白色の肌」の本質を探るとともに、帰国後のフジタの戦争への対応を検証し、画家としての生き方を考える。
7	西洋絵画の主題と表現「光」西洋絵画の写実表現の核とも言える「光」の表現において、近年日本で大ブレイクした17世紀オランダのフェルメールに焦点を当て、日本における受容の経緯や代表作を紹介していく。合わせてシュルレアリストのダリによるオマージュやメーヘレンの贋作事件にも触れていく。
8	レポート作成①前半6回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめ」レポートを作成する。
9	日本絵画の主題と表現「虫」西洋絵画の主題とは対照的な「虫」という日本的な主題にアプローチし、江戸時代の若冲や歌麿、北斎、アール・ヌーヴォーのガレ、近代の近代の御舟や鬘光、現代の宮崎駿や熊田千佳慕などの多彩な作家の表現から日本人の「虫を愛でる心」を探っていく。
10	現代美術の冒険者たち①時代錯誤？ダリの宗教画シュルレアリストの旗手として活躍したダリの時代錯誤にも見えるカトリックへの帰依と宗教画の大作の数々を紹介し、その裏に隠されたガラへの献身的な愛と崇拝を作品から探っていく、ダリの宗教画に込められたものを明らかにしていく。
11	現代美術の冒険者たち②現代において「造形芸術の可能性と多様性」を追求する魅力的で刺激的な作家として、福田繁雄と福田美蘭父娘を取り上げ、ユーモアとウィット、風刺と批評精神に富んだ作品群をスライドショーで詳しく紹介し、極上ウィットのDNAがどのように引き継がれているのかを見て行く。
12	現代美術の冒険者たち③現代において「絵画の可能性と多様性」を追求する魅力的で刺激的な作家として神出鬼没の路上アーティスト・バンクシーを取り上げ、主な代表作や近作をスライドショーで

	詳しく紹介するとともに、世界の危機に立ち向かうバンクシーからのメッセージと制作姿勢について考察する。
13	複数画面による表現①屏風絵と琳派の絆視覚装置としての絵画の可能性の観点から日本の屏風絵を取り上げ、屏風絵の名作を紹介するとともに、そこに隠された構造と魅力に迫る。合わせて宗達。光琳、抱一の屏風絵を通して「琳派の絆」についても多角的に検証していく。
14	複数画面による表現②文字なし絵本に学ぶ複数画面で構成される絵本の中でもユニークな「文字なし絵本」を取り上げ、物語を読み解きながらその魅力をさぐっていく。ウィーズナーの日本デビュー作や日米の文字なし絵本対決などをスライドショーで紹介し、作品に込められた仕掛けや深いメッセージを読み解いていく。
15	レポート作成②後半6回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめ」レポートを作成する。

科目名	彫刻概論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	田丸稔				
クラス名					
授業目的と到達目標					
彫刻芸術は現在非常に多様な素材や表現方法を用いて制作されているが、いわゆる立体表現や技法全般と、彫刻という概念とはどのように棲み分けされるのか、またどのように違うのかについて考察し「彫刻」の概念を理解し定義を試みる。その上で「彫刻とは何か?」という問いを通して、「彫刻でなければできないこと」、や「同じ立体表現の中での彫刻の特異性、平面での表現との違い」について理解する。					
授業概要					
既成作品の鑑賞、既成作家の事歴を題材に、様々な彫刻表現の有り様について学ぶ。グループディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、時には簡単な制作体験を交えて、「彫刻とはなにか?」についての理解を試みる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業時間外は1週間で1~2時間程度、当該講義で扱う地域の歴史や文化について予習し、講義で出てきた作家の事歴について復習すること。 研究不正防止の観点から研究倫理(研究活動における不正行為:捏造、改ざん、盗用、研究データの管理など)に関することには特に留意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート課題			50		
出席状況や受講態度を鑑みた総合的評価			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	彫刻とは何か新装版:特質と限界				
出版社名	日貿出版	著者名	ハーバート・リード/宇佐美英治訳		
参考書名2	近代彫刻史				
出版社名	言叢社	著者名	ハーバート・リード/藤原えりみ訳		
参考書名3	彫刻の美				
出版社名	中央公論美術出版	著者名	本郷新		
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
芸術系大学で制作研究および教育活動を行ってきた経験を活かし、彫刻造形指導及び創作理念を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	「彫刻とは何か」について考える 1		
3	制作体験: 彫刻造形の要素、特に量感について		
4	彫刻の歴史: 古代		
5	彫刻の歴史: ルネッサンス期		
6	彫刻の歴史: 近代(ロダン~ブロンクーシ)		
7	彫刻の歴史: 現代(20世紀以降)		
8	彫刻の歴史: 日本の彫刻		
9	既成作家: ドナテッロ		
10	既成作家: ミケランジェロ		
11	既成作家: 慶派		
12	既成作家: ロダンとその周辺 1		
13	既成作家: ロダンとその周辺 2		
14	20世紀のイタリア		
15	まとめ: 「彫刻とは何か?」について考える2		

科目名	美術論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	加藤義夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ルネサンスから現在までの約 500 年間の西洋美術の価値観の変遷について紹介します。美術の哲学・思想を知り、自らの美的価値観や世界観を構築する基礎づくりを目的とします。現代アートを取り巻く環境、例えば美術館、ギャラリー、アートフェア、国際芸術祭、アートプロジェクトなどを知り、現代のアートと社会との関係性を自分自身で認識し、自分の言葉で語れることを目的とします。</p> <p>さらに展覧会の企画や展覧会の流れなど、アートマネジメントについて研究し、展覧会の「企画書」をレポートとして提出することを到達目標とします。</p>					
授業概要					
<p>西洋美術の根幹を成すキリスト教。旧約聖書・新約聖書を知らずして西洋美術は語れません。他方、古代ギリシャ神話は、ルネサンス以降に西洋美術史に刻印された大切な物語です。多様な価値観が生まれる 20 世紀美術においては、アートと社会の関係性を探求します。現代アートの祭典や美術館、ギャラリーのシステムについてアートマネジメントの観点から解説します。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>前期は西洋美術史を予習し、後期は教科書「アートマネージメントを学ぶ」を予習してください。 授業で学習したことを毎回「まとめ」で記述しておくことで復習とします。 興味を持った美術館やギャラリー、アートフェア、国際芸術祭や展覧会は積極的に観に行き、その印象を感想文に書く習慣をつけてください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期レポート課題キリスト教美術(旧約聖書・新約聖書)の中で好きな作品、影響を受けた作品のをレポートにして提出としてください。			30		
後期レポート課題「マルセル・デュシャンのレディメイドはアートか否かについて」レポート提出してください。			20		
後期「空想美術館構想」をレポート課題として提出してください。			50		
教科書					
教科書1	「アートマネージメントを学ぶ」ISBNコード 978-4-86463-068-9				
出版社名	武蔵野美術大学出版局	著者名	新見隆・伊東正伸・加藤義夫・金子伸二・山出淳也		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	西洋美術史				
出版社名	美術出版社	著者名	監修=高階秀爾		
参考書名2	20世紀の美術				

出版社名	美術出版社	著者名	監修=末永照和
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
アーツスケープ http://artscape.jp			
特記事項			
<p>美術論」の授業では、適宜にオリジナルプリントを配布します。 教科書「アートマネージメントを学ぶ」は、後期に集中的に使用します。後期のレポート課題に必要な教科書です。前期に後期予習として、教科書を読んでおくことをお勧めします。 さらに教科書は芸大を卒業してからも役に立つ書籍です。</p>			
教員実務経験			
<p>宝塚市立文化芸術センター館長として5年間の実務経験や現代美術ギャラリーのディレクターとして約11年間の実務経験のほか、約30年間にわたりインディペンデント・キュレーターとして展覧会制作の実務経験を持つ。また一方、美術評論家として「美術手帖」「日本経済新聞」「朝日新聞」に美術評の連載コラムを持つ実務経験を活かして、ルネサンスから現代までの「美術論」の授業を行う。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンスシラバスを参照して授業の進め方、成績評価の説明 聖書の物語―旧約聖書と新約聖書の大まかな流れについて		
2	西欧世界とキリスト教―part1 美術作品にみる旧約聖書の物語―創世記・アダムとイヴ・ノアの箱舟・バベルの塔		
3	西欧世界とキリスト教―part2 美術作品にみる旧約聖書の物語―モーセの誕生・出エジプト・十戒		
4	西欧世界とキリスト教―part3 美術作品にみる新約聖書の物語―受胎告知・最後の晩餐		
5	西欧世界とキリスト教―part4 美術作品にみる新約聖書の物語―磔刑・復活・最後の審判		
6	古代ギリシャとルネサンス 再生という名の古典文化復興運動		
7	古代ギリシャの神々 ゼウスとオリンポスの神々		
8	レオナルド・ダ・ヴィンチの美術理論 万能の天才レオナルドの人生と作品について		
9	イタリア・バロックの巨匠カラヴァッジョ 光と影の劇的表現でバロック絵画の形成に影響を与えたカラヴァッジョについて		
10	科学の発明と美術の関係について フェルメールが使った光学機器と写真の発明と美術の関係性について		
11	近代芸術の萌芽独創性への道 新古典主義 VS ロマン主義―理想美と個性美の対決		
12	フランス革命がもたらす美術館のはじまりとコレクション		

	世界の美術館の基礎となったルーブル美術館について
13	万国博覧会とジャポニスム浮世絵・琳派などの日本美術が、印象派やアール・ヌーヴォーに影響を与えた歴史
14	ピカソはなぜ、20世紀を代表する画家なのか？ ピカソの秘密を探る
15	ピカソとマティスー破壊と創造 20世紀最大の巨匠ピカソとマティスの物語
16	シュルレアリスムのサルバドール・ダリの美術理論 ダリの視点から見る巨匠たちの成績表
17	マルセル・デュシャンの美術理論ーレディ・メイドという考え方 男性用小便器をアートに仕立て上げた男の話
18	エコール・ド・パリ、画家モディリアーニの物語「モンパルナスの灯」 第一次世界大戦前後、パリが芸術の中心だった頃の時代
19	アメリカのアンディ・ウォーホルとドイツのヨゼフ・ボイスの美術理論について コピーとオリジナルを考える/社会彫刻と芸術概念の拡張という考え方
20	アートプロジェクト-part1/クリスト&ジャンヌクロード プロジェクトという考え方のソーシャルアート
21	アートプロジェクト-part2/川俣正(ニューヨーク)、大久保英治(徳島)のプロジェクトを紹介 法律をクリアし地域社会や住民を巻き込むアートプロジェクトのプロセス
22	展覧会を知る part1ー国際芸術祭の紹介 ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)、ドクメンタ(ドイツ)について紹介します。
23	展覧会を知る part2ー日本の国際芸術祭の紹介 「越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県)」「瀬戸内国際芸術祭(香川県)」「横浜トリエンナーレ(神奈川県)」「あいちトリエンナーレ(愛知県)」などを紹介します。
24	展覧会を知る part3ー国際芸術祭の意義と効用 都市のまちづくり、地域社会の活性化、国際文化交流、経済波及効果などについて。
25	ギャラリーのシステムと仕事の内容 企画画廊と貸画廊について解説します。
26	アートフェアのアートマネジメントについて紹介 ギャラリーが中心となるアートフェアとアートマーケットについて、世界のアートフェアと共にARTOSAKA や ACK(アートコラボレーション京都)を中心に解説します。
27	アートに不可欠なコレクター(パトロン)の存在を紹介 ニューヨークの奇跡のコレクター「ハーブ&ドロシー」の物語
28	企画展の方法と企画書について 展覧会やアートプロジェクトの制作の方法を解説します。
29	アーティストになる方法&アートを続ける方法 アーティストになる方法の紹介。アーティストのセルフマネジメント、セルフブランディング学び、表現者として作品制作を続ける方法を導きだします。 表現者として生き残るための方法を模索します。
30	アートに関係する仕事画家や彫刻家だけがアートに関係する仕事ではありません、さまざまな観点からアートに関係する仕事を紹介します。

科目名	工芸論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬博文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業は次の事柄を通して自由な精神と創造性を養うのを目的とする。 前期: 芸術と生活の接点に位置する工芸の在り方を考える 後期: 民藝的観点と現代工芸的観点から工芸を考える					
授業概要					
工芸は生活にかかわっていることから当然機能が重んじられる。 しかし工芸作品において、フォルムやテクスチャーは単純に機能から演繹されているのではない。 それではいったい作品成立のための工芸の本質とは何なのか。授業では参考文献や資料を用いてその問題について考える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
しっかりと授業に出席し、授業での話と参考書等によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。 ノート(背を綴じているもの)がないと平常点を獲得できないので、必ず用意して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業中のスタンプ獲得数による)			50		
テスト(学年末に一回)			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	生活造形の美学				
出版社名	光生館	著者名	谷田悦次		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション: 工芸の本質をめぐって		
2	「生活造形の美学」を参考に生活造形としての工芸を考える		
3	「生活造形の美学」を参考に機能主義とは何かを考える		
4	機能主義の源流1. : 19世紀中頃に現れた機能主義(アーツアンドクラフツなど)について		
5	機能主義の源流2. : バウハウスまでの機能主義の発展をめぐって		
6	バウハウスにおける機能主義1. : バウハウス宣言(1919)にみる機能主義のあり方		
7	バウハウスにおける機能主義2. : バウハウス工房の製品について		
8	バウハウスにおける機能主義3. : 機能主義と機械生産について(バウハウスの変貌)		
9	バウハウスのパラドクス1. : バウハウスの機能主義の成り立ちにおけるパラドクス		
10	バウハウスのパラドクス2. : バウハウスに始まる機能と形態の問題の再考察		
11	バウハウス以後のデザインについて: 機能主義を越えて		
12	現代のデザインをめぐって1. : 実の透明性(バウハウス)から虚の透明性(ル・コルビュジェ)へ		
13	現代のデザインをめぐって2. : 虚の透明性の実現としての戦後デザイン		
14	19世紀中頃~20世紀後半のデザインの流れにおける機能と形態の問題		
15	前期まとめ		
16	「生活造形の美学」を参考に意匠について考える		
17	「生活造形の美学」を参考に郷土に根ざす工芸を考える		
18	民藝運動のはじまり: 柳宗悦の生涯、「雑器の美」などにおける民藝の基本的思想		
19	民藝運動の展開: 「工芸文化」などにみる民藝思想の成熟		
20	民藝運動と仏教思想: 他力の観点から民藝を考える		
21	民藝作家1. : 浜田庄司(柳の民藝思想の具体化)		
22	民藝作家2. : 河井寛次郎(柳の民藝思想からの逸脱)		
23	民藝思想に対する批判: 人間復興の工芸という観点より民藝を考える		
24	民藝運動の功罪について(明治以降の工芸の流れにおける民藝の位置付け)		
25	民藝思想の乗り越え1. : 富本憲吉の作品(なぜ富本は民藝運動から離脱したのか)		
26	民藝思想の乗り越え2. : 富本憲吉の思想(富本が考えた概念・設計図なき制作)		
27	民藝思想と富本憲吉の思想との比較検討		
28	戦後の工芸をめぐって1. : 走泥社における富本憲吉の思想の受容		
29	戦後の工芸をめぐって2. : 1960年代以降の工芸にみる富本憲吉の思想、後期まとめ		
30	学年末テスト、授業内容に関する今後の展望		

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	宇代貴文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の歴史上には数多くの優れた作品があります。授業では日本美術史の流れにしたがい、各時代の作品の造形や意味、歴史的背景など、作品鑑賞の基礎を学びます。到達目標としては、日本美術への理解を深め、実際に作品を見たうえで自らの言葉で説明できるようになることを目指します。					
授業概要					
授業は講義形式でおこないます。はじめに美術史を概説したうえで、作品を何点か取りあげ、基本的な事柄を説明します。時に歴史的背景にも踏み込んだ説明も行いますが、あくまで作品の様式を理解することに重点をおきます。毎回プロジェクターでスライドを映しながら、様々な作品を紹介し、その表現や技法、制作状況、意味について解説していきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業で紹介した作品について、展覧会に実際に自らの目で見て内容を理解することを勧めます。 ※授業は60%以上出席し、レポートを提出しないと単位を認めることはできません。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常の授業態度			50		
レポート(授業課題など)			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	美術出版ライブラリー歴史編日本美術史				
出版社名	美術出版社	著者名			
参考書名2	日本の美術 1～545号				
出版社名	至文堂・ぎょうせい	著者名			
参考書名3	日本美術全集全 20 巻				
出版社名	小学館	著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
寺院学芸員の視点から、美術史だけでなく地域の歴史文化や文化財保護も視野に入れた授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション縄文・弥生時代(土器・土偶・青銅器)		
2	古墳時代 埴輪・副葬品・壁画など高松塚・キトラ古墳		
3	飛鳥・白鳳時代①仏教公伝と仏教美術の開花 法隆寺釈迦三尊・飛鳥大仏・広隆寺菩薩半跏像など		
4	飛鳥・白鳳時代②聖徳太子信仰と白鳳の美 夢殿救世観音、天寿国繡帳、玉虫厨子、橘夫人念持仏厨子など		
5	奈良時代①南都大寺の興隆 薬師寺(薬師三尊像・東塔)、興福寺(山田寺仏頭・八部衆十大弟子)など		
6	奈良時代②東大寺と正倉院 法華堂不空羼索観音・戒壇院四天王・国家珍宝帳・正倉院工芸品など		
7	奈良時代③鑑真と唐招提寺 唐招提寺(鑑真和上像・本尊廬舎那仏像・木彫群像)など		
8	平安時代①平安遷都最澄と空海 延暦寺(根本中堂・伝教大師将来目録)東寺(講堂諸像)など		
9	平安時代②仏教の多様化(密教・神仏習合) 神護寺薬師如来・高雄曼荼羅・向源寺十一面観音・金峯山蔵王権現など		
10	平安時代③摂関期の美術(法華経・浄土信仰) 平等院鳳凰堂・浄瑠璃寺九体阿弥陀・藤原道長金銅経筒など		
11	平安時代④院政期の美術 中尊寺金色堂・仁和寺蒔絵冊子箱・年中行事絵巻など		
12	平安時代⑤平安王朝の装飾普賢菩薩像(東博)・東寺十二天像・高野山阿弥聖衆来迎図・平家納経など		
13	平安時代⑥平安絵巻物信貴山縁起・伴大納言絵巻・鳥獣人物戯画など		
14	鎌倉・南北朝時代①鎌倉幕府と武家の文化 似絵と肖像彫刻(重源像・空也上人像・明恵上人像・神護寺三像など)		
15	鎌倉・南北朝時代②運慶と快慶 東大寺南大門金剛力士・願成就院阿弥陀・東大寺僧形八幡神坐像など		
16	鎌倉・南北朝時代③鎌倉絵巻物 北野天神縁起絵巻・一遍聖絵・春日権現験記絵巻など		
17	鎌倉・南北朝時代④中世の信仰と美術(浄土教・神祇) 知恩院早来迎・山越阿弥陀・善光寺阿弥陀・那智滝図・春日曼荼羅など		
18	室町時代①足利将軍家と美術 鹿苑寺足利義満・牧谿瀟湘八景図・伝徽宗桃鳩図・曜変天目茶碗など		
19	室町時代②禅宗の美術・水墨画 明兆達磨図・如拙瓢鮓図・雪舟慧可断臂図・四季山水図など		

20	室町時代③狩野派の興隆(狩野正信・元信) 大徳寺大仙院障壁画・妙心寺霊雲院障壁画・周茂叔愛蓮図など
21	桃山時代①天下人の造形桃山時代の城郭 桃山時代の絵師たち(狩野永徳・長谷川等伯・海北友松)唐獅子図屏風(宮内庁)など
22	桃山時代②永徳の後継者(狩野光信・孝信)勸学院襖(園城寺)・賢聖障子襖(仁和寺) 近世初期土佐派・近世初期風俗画・絵入り本・社寺参詣曼荼羅など
23	桃山時代③南蛮の美術南蛮図屏風(神戸市博)泰西王侯騎馬図(神戸市博) 茶の湯(千利休・古田織部)茶室(待庵)、桃山時代のデザイン、戦とかざりなど
24	江戸時代①日本美術の熟成大規模建築の造営(二条城・日光東照宮) 江戸絵画と京狩野(狩野探幽・尚信・山楽・山雪)二条城二の丸御殿障壁画、岩佐又兵衛と風俗画 など
25	江戸時代②近世デザインと琳派(本阿弥光悦・俵屋宗達・尾形光琳) 風神雷神図(建仁寺)・紅白梅図屏風(MAO美術館)、尾形乾山と江戸陶芸など
26	江戸時代③浮世絵の誕生(菱川師宣・鳥居清倍)見返り美人図(東博) 江戸の出版文化(嵯峨本)、近世庶民信仰の美術(円空・木喰)、黄檗の美術(萬福寺)など
27	江戸時代④京都画壇の絵師たち(伊藤若冲・曾我蕭白・円山応挙・長沢芦雪) 動植彩絵(宮内庁)・群仙図(宮内庁)・七難七福図巻(相国寺)、江戸の文人画(池大雅・与謝蕪村) など
28	江戸時代⑤中国・西洋画の影響(南蘋派・秋田蘭画・司馬江漢・亜欧堂田善)柳汀双禽図(琵琶文) 不忍池図(秋田近美)異国風景人物図(神戸市博)、浮世絵の成熟(葛飾北斎・歌川広重)富嶽三十六景・東海道五十三次、江戸絵画表現の多様など
29	江戸時代⑥江戸琳派(酒井抱一・鈴木其一)夏秋草図屏風(東博)、文人画(浦上玉堂・田能村竹 田・谷文晁)東雲師雪図(川端記念館)公余探勝図巻(東博)、江戸後期の工芸・建築など
30	近代岡倉天心と日本美術鮭(東京芸大)・悲母観音(東京芸大)・老猿(東博)など

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度前期～後期	形態	講義		
教員名	五十嵐公一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本では多くの優れた作品が作られてきました。授業ではそれらの作品を時代の流れに沿って紹介してゆきます。日本美術史は実に面白い学問です。その面白さを伝えること、そして興味を持ってもらうことが授業目的であり到達目標です。					
授業概要					
授業では、先ず作品が生まれた時代背景を説明します。それを踏まえ、パワーポイントの画像を見てもらいながら多くの作品を紹介してゆきます。作品がどのような状況で生まれ、どのような意味を持っているのかを知ってもらいたいと思います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
毎回の授業の初めに、出席カードを配ります(出席カードは授業終了後に回収します)。そして授業の終わりに、簡単な課題を出します。その課題を指定された期限までに UNIPA で提出できたら授業に出席したと認めます。2/3 以上の授業に出席し、更に年度末レポートを提出しないと単位が取得できません。楽に単位が取得できるわけではありません。注意してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の授業で示した課題			60		
年度末のレポート			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	美術出版ライブラリー歴史篇日本美術史				
出版社名	美術出版社	著者名			
参考書名2	天皇の美術史全 6 巻				
出版社名	吉川弘文館	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	01 縄文・弥生時代 ・火焰型土器、遮光器土偶、三内丸山遺跡など		
2	02 古墳時代 ・箸墓古墳、高松塚古墳、キトラ古墳など		
3	03 飛鳥・白鳳時代 ・釈迦三尊像(法隆寺)、救世観音像(法隆寺)、弥勒菩薩像(野中寺)など		
4	04 奈良時代: 薬師寺と興福寺 ・薬師寺東塔、薬師如来像(薬師寺)、阿修羅像(興福寺)など		
5	05 奈良時代: 東大寺と正倉院 ・不空羂索観音像(東大寺)、戒壇院四天王像(東大寺)、鳥毛立女屏風(正倉院)など		
6	06 奈良時代: 鑑真来日と唐招提寺 ・鑑真和上像(唐招提寺)、唐招提寺金堂、唐招提寺諸像など		
7	07 平安時代: 最澄と空海 ・東寺講堂諸像、灌頂歴名(神護寺)、如意輪観音(観心寺)など		
8	08 平安時代: 摂関政治と美術 ・藤原道長金銅経筒(金峯神社)、平等院鳳凰堂、九体阿弥陀如来像(浄瑠璃寺)など		
9	09 平安時代: 院政期の美術1 ・薬師如来像(仁和寺)、普賢菩薩像(大倉集古館)、阿弥陀三尊像(長岳寺)など		
10	10 平安時代: 院政期の美術2 ・十二天像(京都国立博物館)、普賢菩薩像(東京国立博物館)、平家納経(厳島神社)など		
11	11 平安時代: 絵巻 ・源氏物語絵巻(徳川美術館ほか)、伴大納言絵巻(出光美術館)、鳥獣人物戯画(高山寺)など		
12	12 鎌倉・南北朝時代: 運慶と快慶 ・大日如来像(円成寺)、金剛力士像(東大寺)、阿弥陀三尊像(浄土寺)など		
13	13 神護寺三像の問題 ・伝源頼朝像・伝平重盛像・伝藤原光能像(神護寺)		
14	14 鎌倉・南北朝時代: 天皇と武家1 ・後鳥羽天皇像(水無瀬神宮)、隨身庭騎絵巻(大倉集古館)、花園法皇像(長福寺)など		
15	15 鎌倉・南北朝時代: 天皇と武家2 ・伊勢物語絵巻(久保惣記念美術館)、春日権現縁起巻(皇居三の丸尚蔵館)など		
16	16 室町時代: 足利将軍家と美術 ・足利義満像(鹿苑寺)、瓢鮎図(退蔵院)、融通念仏縁起絵巻(禅林寺)など		
17	17 室町時代: 雪舟等揚 ・破墨山水図(東京国立博物館)、四季山水図(毛利博物館)、天橋立図(京都国立博物館)など		
18	18 室町時代: 狩野派の登場 ・周茂叔愛蓮図(九州国立博物館)、大徳寺大仙院障壁画、四季花鳥図屏風(白鶴美術館)など		
19	19 安土桃山時代: 狩野永徳と長谷川等伯 ・織田信長像(大徳寺)、唐獅子図屏風(皇居三の丸尚蔵館)、松林図屏風(東京国立博物館)など		

20	20江戸時代:豊臣から徳川へ1 ・二条城障壁画、名古屋城障壁画、四季松図屏風(大徳寺)など
21	21江戸時代:豊臣から徳川へ2 ・龍虎図屏風(妙心寺)、妙心寺天球院障壁画、雪汀水禽図屏風など
22	22江戸時代:琳派1 ・風神雷神図屏風(建仁寺)、蓮池水禽図(京都国立博物館)、紅白梅図屏風(MOA美術館)など
23	23江戸時代:琳派2 ・夏草図屏風(東京国立博物館)、夏秋溪流図屏風(根津美術館)など
24	24江戸時代:浮世絵1 ・鈴木春信、喜多川歌麿、東洲斎写楽ほか
25	25江戸時代:浮世絵2 ・葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳ほか
26	26江戸時代:18世紀の京都1 ・雪松図屏風(三井記念美術館)、大乘寺障壁画、無量寺障壁画など
27	27江戸時代:18世紀後半の京都2 ・動植綵絵(皇居三の丸尚蔵館)、仙人掌群鶏図襖(西福寺)、雲龍図(ポストン美術館)など
28	28江戸時代:京都御所 ・京都御所障壁画など
29	29明治時代:日本画と洋画 ・鮭(東京藝術大学)、無我(東京国立博物館)、湖畔(黒田記念館)など
30	30大正時代以降 ・序の舞(東京藝術大学)、立てる像(神奈川県立近代美術館)など

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	河田昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本美術を知っていますか?一般に、美術は、自然や生活、政治経済や思想、または海外文化の影響などを受けて形成されます。日本の美術も例外ではなく、独自の美意識が作品に投影されています。具体的な作品をとおして、造形の意義や特徴を学び、作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。					
授業概要					
過去に製作され現在も観ることができる日本美術の作品を取り上げ、パワーポイントの画像を提示しながら、講義します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
講義で取り上げた作品を、できるだけ展覧会に出向いて観賞することを勧めます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学期末試験			50		
レポート(授業中の課題など)			30		
平常の授業態度(出席状況など)			20		
教科書					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	日本美術史入門				
出版社名	平凡社	著者名	河野元昭監修		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	日本美術史を学ぶにあたっての基礎知識や時代区分など
2	縄文時代の美術・・・生活環境、縄文式土器や土偶などの祭祀と美術について
3	弥生時代の美術・・・生活環境、弥生式土器や青銅器など、ムラの機能と美術について
4	古墳時代の美術・・・中国との関わり、埴輪、副葬品、古墳壁画など
5	飛鳥時代の美術 1・・・仏教伝来、仏像、伽藍、寺院など、仏教美術について美術につて
6	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
7	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
8	奈良時代後期(天平)の美術 1・・・法隆寺、仏像など、仏教美術について
9	奈良時代後期(天平)の美術 2・・・正倉院の仏教美術や工芸品を中心に
10	平安時代前期(貞観)の美術 1・・・空海と最澄、真言宗と天台宗など、密教美術について
11	平安時代前期(貞観)の美術 2・・・三筆と三蹟(さんせき)など、書について
12	平安時代後期(藤原)の美術 1・・・浄土教、J道長と紫式部など、王朝の美術工芸について
13	平安時代後期(藤原)の美術 2・・・源氏物語絵巻、伴大納言絵巻、鳥獣人物戯画など
14	鎌倉時代の美術 1・・・源頼朝と鎌倉、武家文化、似絵(にせえ)など、美術の新生面
15	鎌倉時代の美術 2・・・運慶、快慶、寺院建築など、仏教美術について
16	鎌倉時代の美術 3・・・藤原定家と古典、物語絵、書など、文芸と美術について
17	室町時代の美術 1・・・足利将軍家と中国美術コレクションなど、外来文化の需要について
18	室町時代の美術 2・・・禅宗、雪舟、水墨画、墨蹟(ぼくせき)など、禅林の美術について
19	室町時代の美術 3・・・お伽草子絵など、庶民の美術について
20	桃山時代の美術 1・・・信長、秀吉と戦国武将の美意識、城郭建築など、武士と美術に
21	桃山時代の美術 2・・・千利休、茶の湯など、茶の美術について
22	桃山時代の美術 3・・・金箔と障壁画や屏風など、狩野派と町絵師について
23	江戸時代前期の美術 1・・・俵屋宗達と本阿弥光悦など、装飾と書のコラボの美について
24	江戸時代前期の美術 2・・・南蛮美術と文化など、異国の文物への関心と流行について
25	江戸時代前期の美術 3・・・四条河原遊楽図、歌舞伎図など初期風俗画について
26	江戸時代中期の美術 1・・・尾形光琳と乾山など、琳派の美術について
27	江戸時代中期の美術 2・・・池大雅、与謝蕪村などの文人画と円山応挙などの写生画派について
28	江戸時代後期の美術 1・・・鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重など、浮世絵について
29	江戸時代後期の美術 2・・・長沢蘆雪、伊藤若冲、曾我蕭白など、異風の絵師たちについて
30	近代の美術・・・明治期以降の美術の動向

科目名	東洋美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	田林啓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
東洋美術史へ関心を持ち、東洋美術に関する具体的なイメージを持つこと。					
授業概要					
【対面授業】各回で一つの作品を中心に話を進める。中国美術史を主とし、中国美術と他地域の美術との関係性を読み解いていく。授業は、東洋美術史の研究手法紹介、各地域の美術作品の特性の把握、各時代における中国美術の特性の把握、中国美術と他地域作品との関連性というように大きく4つのテーマを設けて進める。これらを踏まえて後半では日本の美術作品も扱っていく。 扱う作品は、教員が学芸員として実際に展示した或いは自らが研究したものを主軸とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・授業中の私語は禁じます。・学期末(前期・後期ともに)の最終授業日に筆記試験を実施します。 単位取得には筆記試験の受験が必須条件です。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期筆記試験			40		
後期筆記試験			40		
受講態度			20		
教科書					
教科書1	毎回の授業で配布するプリント				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
美術館に学芸員として勤務。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	東洋美術史の対象地域、研究方法及び授業の進め方、評価方法についての説明
2	シルクロードとは中国と他地域との影響関係(1) シルクロード上の各地域及び作品についての概要
3	各地の石窟(洞窟)寺院(1)中国と他地域との影響関係(2) 中国・雲岡石窟、龍門石窟、敦煌莫高窟についての概要
4	各地の石窟(洞窟)寺院(2)中国と他地域との影響関係(3) 西域・キジル石窟、インド・アジャンター石窟についての概要
5	秦・兵馬俑中国美術史概論(1) 兵馬俑を主に取り上げて、中国の戦国、秦時代の美術についてみていきます
6	昇仙図(天界に昇る様子を描く絵画、馬王堆帛画)中国美術史概論(2) 昇仙図を主に取り上げて、中国の前漢時代の美術についてみていきます
7	博山炉(仙人の世界を表す香炉)中国美術史概論(3) 博山炉を主に取り上げて、中国の後漢時代の美術についてみていきます
8	洛神賦図中国美術史概論(4) 洛神賦図を主に取り上げて、中国の魏晉時代の美術についてみていきます
9	雲岡石窟(洞窟)中国美術史概論(5) 雲岡石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代前半の美術についてみていきます
10	龍門石窟(洞窟)中国美術史概論(6) 龍門石窟を主に取り上げて、中国の南北朝時代後半の美術についてみていきます
11	潼関税村壁画墓中国美術史概論(7) 潼関税村壁画墓を主に取り上げて、中国の隋時代の美術についてみていきます
12	白鶴美術館所蔵の銀器中国美術史概論(8) 白鶴美術館所蔵の銀器を主に取り上げて、中国の唐時代前半の美術についてみていきます
13	法門寺地下宮出土の美術中国美術史概論(9) 法門寺地下宮出土の美術を主に取り上げて、中国の唐時代後半の美術についてみていきます
14	清凉寺蔵釈迦如来像中国美術史概論(10) 清凉寺蔵釈迦如来像を主に取り上げて、中国の北宋時代の美術についてみていきます
15	大徳寺他蔵五百羅漢図中国美術史概論(11) 大徳寺他蔵五百羅漢図を主に取り上げて、中国の南宋時代の美術についてみていきます
16	敦煌莫高窟の美術(1)中国の美術各論(1) 世界遺産敦煌莫高窟の主な洞窟を取り上げて、莫高窟について詳しくみていきます
17	敦煌莫高窟の美術(2)中国の美術各論(2) 世界遺産敦煌莫高窟から発見された主な作品を取り上げて、敦煌の美術について詳しくみていきます
18	法隆寺の至宝①玉虫厨子東洋美術と日本美術(1) 法隆寺蔵の玉虫厨子を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
19	法隆寺の至宝②釈迦三尊像東洋美術と日本美術(2)

	法隆寺蔵の釈迦三尊像を主に取り上げて、そこにみられる東洋美術との影響関係についてみていきます
20	聖徳太子の絵画①聖徳太子絵伝東洋美術と日本美術(3) 聖徳太子絵伝を主に取り上げて、説話図における東洋美術との影響関係についてみていきます
21	聖徳太子の絵画②聖徳太子勝鬘経講讃図東洋美術と日本美術(4) 勝鬘経講讃図を主に取り上げて、仏画における東洋美術との影響関係についてみていきます
22	東大寺戒壇院四天王像東洋美術と日本美術(5) 戒壇院四天王像を主に取り上げて、塑像における東洋美術との影響関係についてみていきます
23	薬師寺薬師三尊像東洋美術と日本美術(6) 薬師寺薬師三尊像を主に取り上げて、銅像における東洋美術との影響関係についてみていきます
24	正倉院宝物東洋美術と日本美術(7) 正倉院宝物を主に取り上げて、工芸品における東洋美術との影響関係についてみていきます
25	興福寺阿修羅像東洋美術と日本美術(8) 興福寺阿修羅像を主に取り上げて、乾漆像における東洋美術との影響関係についてみていきます
26	当麻曼荼羅東洋美術と日本美術(9) 当麻曼荼羅を主に取り上げて、浄土図における日本美術と東洋美術との影響関係についてみていきます
27	東寺立体曼荼羅(密教仏像群)東洋美術と日本美術(10) 東寺立体曼荼羅を主に取り上げて、密教美術における東洋美術との影響関係についてみていきます
28	平等院鳳凰堂の堂内装飾(荘厳具)東洋美術と日本美術(11) 平等院鳳凰堂の堂内装飾を主に取り上げて、荘厳具における東洋美術との影響関係についてみていきます
29	東大寺南大門の力士像東洋美術と日本美術(12) 東大寺南大門の力士像を主に取り上げて、力士表現や木像における東洋美術との影響関係についてみていきます
30	総まとめ

科目名	デザイン史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本雅志				
クラス名					
授業目的と到達目標					
近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史の変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。					
授業概要					
【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末テスト(筆記)			90		
平常点			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	世界デザイン史				
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか		
参考書名2	デザイン史入門				
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著 藪亨訳		
参考書名3	デザインの小さな哲学				
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルッサー著 瀧本雅志訳		

参考書名4		
出版社名		著者名
参考書名5		
出版社名		著者名
参考 URL		
特記事項		
教員実務経験		
授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容	
1	「イントロダクション: デザインとは何か?」: 「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。	
2	「近代デザイン前史」: 産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。	
3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。	
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。	
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて、彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。	
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有な名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマル、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。	
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリ・ビアズリー、エミール・ガレ、ティファニー等となるだろう。	
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時代にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家村コロニーの可能性を検討する。	
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。	
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家 فرانク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。	

11	「バウハウス①」:トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」:デッサウに移転した1925年以降の第2期、1932年～33年のベルリンでの第3期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。
13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」:デ・ステイルは、1917～31年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。
14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」:革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを辿ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」:アール・デコとは、1925年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが1920年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」:左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に19世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ+前期の復習テスト」:後期2週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期3週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」:インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルとMoMA」:1929年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象としたNY近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932年に開催された「近代建築:国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50～60年代イタリアとドイツのデザイン」:第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後20年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940年代末以降の「グーテ・フォルム」の概念や1953年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」:50年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」:60年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、ツイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。
23	「60年代のパリ・ファッション」:スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60年代のサウンドデザイン」:60年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして60年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」:建築家の設計＝デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示しうる。そうした考えのアンビルトの思想

	が、60年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチャーリ、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBA とクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランド BIBA のデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90年代前半には、汚いブアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。
28	「北欧デザインの可能性」: デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70年代以降の建築デザイン」: 70年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや髣建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなデザイン概念」: グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	工芸史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	東野真紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の工芸について、様々な素材による美について、歴史をたどり考える。工芸を考えることによって、日本文化の特徴を探っていく。総合文化である茶の湯の美を理解することを通じて、日本文化および日本の美意識を学び、様々な分野に興味を広げ、工芸について多面的に理解できることを本講義の目標とする。					
授業概要					
日本の工芸について、様々なテーマについて講義する。工芸を通じて、日本の文化について考える。工芸作品について、時代背景について、多角的にとらえるために、映像や映画も取り入れる。また、映像を見ての感想を求める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
博物館や美術館や展覧会など、作品を見る機会を積極的に作ること。また、図書館を積極的に利用すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
出席して授業に取り組み、小レポートを作成する			50		
前期の学期末レポートと後期の学期末レポートを指定する日時までに必ず提出すること			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	必要な資料は印刷して配布する。				
出版社名		著者名			
参考書名2	『わかりやすい茶の湯の文化』				
出版社名	淡交社	著者名	谷晃		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
レポートの作成方法、図書館の利用方法についてレクチャーする。 学期末に各自レポートの発表を行う。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本の文化と工芸日本の文化の t 特徴と工芸について		
2	「工芸論」のレポート作成のための図書館利用について		
3	工芸の種類と歴史について		
4	日本の工芸と文化に関する映画を見て考察する		
5	日本の文化と工芸に関する映画を見て考察する		
6	工芸の歴史		
7	工芸の歴史		
8	工芸の素材・色彩・技術		
9	染色と織物について		
10	陶磁器について		
11	漆について		
12	金属工芸について		
13	木工・竹工品について		
14	ガラスについて		
15	レポート発表(1200 字以上で、事前準備を要する)		
16	現代と工芸について		
17	日本美術・芸道・工芸について		
18	日本の文化と工芸に関する映画を見て考察する		
19	日本の文化と工芸に関する映画を見て考察する		
20	茶の湯の文化について		
21	茶の湯の建築について		
22	コンセプトアートとしての茶の湯		
23	茶の湯の実際		
24	茶の湯の実際		
25	芸道としての茶の湯		
26	工芸に関する動画を見て考察する		
27	工芸に関する動画を見て考察する		
28	これからの工芸と世界における日本の工芸		
29	各分野・テーマごとにレポートについて議論する		
30	レポート発表(1200 字以上で事前準備を要する)		

科目名	美術特論 I	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬博文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業は次の事柄を通して自由な精神と創造性を養うのを目的とする。 前期: アンフォルム(不定形)の観点から現代美術を考える 後期: 徹底操作/二重の転倒の観点から美術作品を考える					
授業概要					
現代美術は単に見えるものを問題としているのではなく、見えるもののリアリティが成立するときに忘却されてしまう何かを問題にしていると言える。それは見えるものの身体であるが、見えないものである。しかしその見えないものは見えるものを通してしか提示しえないところに大きな困難があるだろう。又そこに面白さもある。授業ではこうした観点から現代美術を理論的に考える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
しっかりと授業に出席し、授業での話と教科書によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。 教科書がないと受講に支障が出る可能性がありますので、必ず購入しておいて下さい。またノート(背を綴じているもの)がないと平常点を獲得できないので、必ず用意して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業中のスタンプ獲得数による)			50		
テスト(学年末に一回)			50		
教科書					
教科書1	造形原理				
出版社名	大阪芸術大学	著者名	高瀬博文		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション:なぜ美術が存在するのか
2	アンフォルムとは何か(ジョルジュ・バタイユ)
3	アンフォルムと水平性1.古典美術～垂直性 vs.現代美術～水平性
4	アンフォルムと水平性2. ジャクソン・ポロックのアクションペインティング
5	アンフォルムと水平性3. ポロックによる無意識の表現
6	アンフォルムと水平性4. ポロック以降の水平性の表現(ウォーホルなど)
7	アンフォルムと視線1. 視線とは何か(対象 a としての視線)
8	アンフォルムと視線2. シンディ・シャーマンの作品における視線の現れ
9	アンフォルムと水平性3. エドゥワール・マネ、フリードリヒ・ターナーによる視線の表現
10	アンフォルムと水平性4. 視線を問題化することの意味
11	アンフォルムと無意識1. 無意識の作用とはなにか
12	アンフォルムと無意識2. 無意識の観点から見たマルセル・デュシャンの芸術史の意味
13	アンフォルムと無意識3. デュシャンの「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも」
14	アンフォルムと無意識4. その他の作家における無意識の問題化をめぐって
15	前期まとめ
16	ジークムント・フロイトの考える強迫反復と徹底操作
17	「残酷な神が支配する」(萩尾望都)などにみる強迫反復と徹底操作
18	徹底操作としての美術作品の制作
19	絵画におけるエネルギー解放論的観点 vs. 絵画における徹底操作
20	文学作品に見られる徹底操作をめぐって(ステファヌ・マラルメ)
21	イマヌエル・カントの美学思想に現れた徹底操作1.
22	イマヌエル・カントの美学思想に現れた徹底操作2.
23	荒川修作の作品における徹底操作1. (「意味のメカニズム」)
24	荒川修作の作品における徹底操作2. (「I のための習作」など)
25	バーネット・ニューマンにみられる徹底操作
26	フランシス・ベーコンにおける徹底操作
27	ダニエル・ビュランにみられる徹底操作
28	美術作品の徹底操作＝二重の転倒1. 二重の転倒とは何か
29	美術作品の徹底操作＝二重の転倒2. 二重の転倒がなぜ必要なのか、後期まとめ
30	この一年間の授業内容に関する今後の展望

科目名	美術特論Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	河田昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
独自の美を形成している日本美術の特質を講義します。作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。					
授業概要					
日本の美術の名作を順次取り上げ、パワーポイントを併用しながら講義します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
展覧会等で実際の作品をできるだけたくさん観ることを勧めます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学期末試験			50		
レポート(平常課題)			30		
平常の授業態度(出席状況など)			20		
教科書					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

登録博物館の学芸員として、約 37 年間に展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わり、現在もそれを継続しています。こうした経験を基にして、美術品に関する具体的な事例を提示しながら、実社会で応用できる「生きた情報」を盛り込んで講義します。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	平安時代の美術(1)やまと絵
2	平安時代の美術(2)やまと絵
3	平安時代の美術(3)やまと絵
4	平安時代の美術(4)仏画
5	平安時代の美術(5)仏画
6	平安時代の美術(6)料紙装飾
7	平安時代の美術(7)料紙装飾
8	鎌倉時代の美術(1)似絵
9	鎌倉時代の美術(2)似絵
10	鎌倉時代の美術(3)似絵
11	鎌倉時代の美術(4)やまと絵
12	鎌倉時代の美術(5)やまと絵
13	鎌倉時代の美術(6)その他
14	鎌倉時代の美術(7)その他
15	室町時代の美術(1)水墨画
16	室町時代の美術(2)水墨画
17	室町時代の美術(3)水墨画
18	室町時代の美術(4)水墨画
19	室町時代の美術(5)墨蹟
20	室町時代の美術(6)やまと絵
21	室町時代の美術(7)やまと絵
22	江戸時代の美術(1)風俗画洛中洛外図
23	江戸時代の美術(2)風俗画初期洋風画
24	江戸時代の美術(3)風俗画その他
25	江戸時代の美術(4)装飾画派俵屋宗達
26	江戸時代の美術(5)琳派 1 尾形光琳
27	江戸時代の美術(6)琳派 2 酒井抱一
28	江戸時代の美術(7)文人画
29	江戸時代の美術(8)円山・四条派
30	江戸時代の美術(9)浮世絵版画

科目名	美術特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	石井元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神の国際的視野に立って、西洋美術作品の鑑賞を通じ、ルネサンス期ヴェネツィア美術を概観する。前期はその流れを理解し、後期はデヴィッド・ロザンド著『ヴェネツィア神話』を読みながら、美術と政治の関係に関する知識を深める。					
授業概要					
前期は主に15・16世紀のヴェネツィア美術の流れを、それぞれの作品分析を行いながら、概観する。後期は『ヴェネツィア神話』を輪読する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
一般的な世界史の基礎知識を持っていることが望ましいので、高校の教科書を再読するか、『もういちど読む山川世界史』などを使って予め勉強しておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験			100		
教科書					
教科書1	『ヴェネツィア神話ある国家の図像化』				
出版社名	三元社	著者名	デヴィッド・ロザンド		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	新装版西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	ジェイムズ・ホール	著者名	河出書房新社		
参考書名2	小学館世界美術大全集				
出版社名	小学館	著者名			
参考書名3	西洋絵画の主題物語Ⅰ 聖書編Ⅱ 神話編(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「オリエンテーション 1」 14 世紀のヴェネツィア美術
2	15 世紀前半のヴェネツィア絵画 1
3	15 世紀前半のヴェネツィア絵画 2
4	15 世紀後半のヴェネツィア絵画 1
5	15 世紀後半のヴェネツィア絵画 2
6	15 世紀前半のヴェネツィア彫刻
7	15 世紀後半のヴェネツィア彫刻
8	16 世紀のヴェネツィア絵画ジョルジョーネ
9	16 世紀のヴェネツィア絵画ティツィアーノ
10	16 世紀のヴェネツィア絵画ヴェロネーゼ
11	16 世紀のヴェネツィア絵画パルマ・イル・ジョーヴァネ
12	16 世紀のヴェネツィア彫刻
13	16 世紀のヴェネツィア建築パツラーディオ
14	まとめ 1
15	まとめ 2
16	『ヴェネツィア神話』解説
17	『ヴェネツィア神話』序説
18	『ヴェネツィア神話』第一章 1
19	『ヴェネツィア神話』第一章 2
20	『ヴェネツィア神話』第二章 1
21	『ヴェネツィア神話』第二章 2
22	『ヴェネツィア神話』第三章 1
23	『ヴェネツィア神話』第三章 2
24	『ヴェネツィア神話』第四章 1
25	『ヴェネツィア神話』第四章 2
26	ヴェネツィア共和国と政治 1
27	「ヴェネツィア共和国と政治 2
28	まとめ 1
29	まとめ 2
30	授業中試験

科目名	工芸特論 I	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度前期～後期	形態	講義		
教員名	山中俊広				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>工芸をベースに表現するアーティストの活動範囲は、近年ますます広がりを見せている。技術・素材の扱いに日本的な思考が反映されている芸術領域として注目を集め、その魅力を国内外へ発信する様々な動きが見られると同時に、現代アート(現代美術)など他領域への活動の場の展開が顕著である。</p> <p>本授業では、現在の工芸の定義や枠組みを周辺の芸術領域との関係性から考察し、工芸系のアーティストとしての活動に関わる様々な環境などにも触れて、工芸の領域を多角的に捉え、現代の工芸のあり方について論考していくことを目的とする。</p> <p>近い将来に工芸系のアーティストとして活動する際に必要と思われる知識やスキルを、本授業の中で幅広く提供することで、各々の将来像に応じた視点や思考を自らで見出し、深めていけるようになることを目標とする。本授業は、ディプロマポリシーにある「工芸作家の育成」に関連している。</p>					
授業概要					
<p>[前期]主に講義形式の授業で構成する。アーティストとして制作活動を展開していくための基礎知識として、工芸の領域についての様々な視点での捉え方、活動の選択肢を広げるための実践例やその思考、活動環境の多様性について解説する。</p> <p>[後期]グループワークによる実習と講義形式を併用した授業とする。作品発表の活動の幅を広げるために、グループ展の企画を考えるワークショップをおこない、自らの作品および制作テーマについての理解を、他者とのコミュニケーションを介して深めることを目指す。また、展覧会を作る専門の職能であるキュレーターやアートマネジメントの仕事にも触れて、アーティストのキャリアをサポートする役割の必要性についても解説する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>講義形式の授業では、スライドで授業のレジュメ、参考の画像や映像を映して説明・解説をおこなう。なお、レジュメの配布はおこなわない。各自で必要な知識や情報の部分を書き取る・記録する習慣を身に付けること。(随時資料の配布は有り)普段から美術館やギャラリーなどの展覧会に足を運び、工芸に限らず様々な芸術領域の作品や展示に触れることを推奨する。また授業で紹介・解説する様々なコンテンツを、自らの作品や表現テーマと重ねながら、自らにとって工芸の諸要素はどんな比重で影響を与えていて、どのようなバランスが理想なのかを、随時考える機会にしていきたい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業中の小レポート、授業に取り組む姿勢			30		
前期末レポート			30		
後期グループワークの取り組み			40		
教科書					
教科書1	特になし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書・参考文献			
参考書名1	21世紀は工芸が面白い		
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹(編)
参考書名2	工芸未来派:アート化する新しい工芸		
出版社名	六耀社	著者名	秋元雄史
参考書名3	現代美術史日本篇 1945-2014		
出版社名	アートダイバー	著者名	中ザワヒデキ
参考書名4	GOFORKOGEI2024 くらしと工芸、アートにおける哲学的なもの(カタログ)		
出版社名	認定 NPO 法人趣都金澤	著者名	
参考書名5	{アートと経済社会について考える研究会報告書, https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/art_economic/20230704_report.html }		
出版社名		著者名	アートと経済社会について考える研究会、経済産業省
参考 URL			
{ thethreekonohana , http://thethree.net/ }			
特記事項			
教員実務経験			
<p>これまでにギャラリスト、アートプロジェクトのディレクター／キュレーター、学芸員として、幅広くアートの企画・運営に幅広く携わり、様々な分野のアーティストと協働してきた経験を活かし、現代の工芸を幅広い視野で理解するための考え方を指導する。</p> <p>{教員のプロフィール,https://thethree.net/artistsdirectors/192/}</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	担当教員の自己紹介、前期ガイダンス		
2	アート(芸術)のカテゴリーを考える:アートの中にある「工芸」		
3	工芸のカテゴリーを考える 1:工芸のカテゴリーの成り立ちとその歴史		
4	工芸のカテゴリーを考える 2:本学科の4つの領域とその他の工芸領域		
5	作品を作るということ 1:技術/素材と向き合う		
6	作品を作るということ 2:自分自身と向き合う		
7	作品を作るということ 3:社会/日常と向き合う		
8	工芸とアートの境界を考える 1:日本的/伝統的な「工芸」		
9	工芸とアートの境界を考える 2:「現代美術・アート」と「工芸」の接点		
10	工芸とアートの境界を考える 3:世界・海外の「現代工芸」の捉え方		
11	展覧会鑑賞(大阪芸術大学博物館の所蔵品展)※実施回が変わる場合があります		
12	作品発表の環境 1:ギャラリー、アートフェア、デパート		
13	作品発表の環境 2:美術館、アートセンター		
14	作品発表の環境 3:芸術祭、アートプロジェクト		
15	前期のまとめ		
16	後期ガイダンス、前期末課題のフィードバック		
17	アーティストのキャリア構築のために 1:評価の仕組み		

18	アーティストのキャリア構築のために 2: 展覧会を作ること
19	グループワーク「グループ展をつくる」1: グループメンバーの思考・関心を知る
20	グループワーク「グループ展をつくる」2: グループメンバーの思考・関心を整理する
21	グループワーク「グループ展をつくる」3: プレゼンテーション
22	グループワーク「グループ展をつくる」4: 展示計画、展覧会テーマを考える 1
23	グループワーク「グループ展をつくる」5: 展示計画、展覧会テーマを考える 2
24	グループワーク「グループ展をつくる」6: プレゼンテーション
25	グループワーク「グループ展をつくる」7: プレゼンテーション、総括
26	アートマネジメントとキュレーション 1: 工芸に関わるもう一つの選択肢
27	アートマネジメントとキュレーション 2: アートマネジメントの役割と仕事
28	アートマネジメントとキュレーション 3: キュレーションの役割と仕事
29	アーティストとしての活動を継続するために: 20代・若手のキャリア作り
30	後期・本授業のまとめ

科目名	工芸特論Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	藤田浩明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
これまでの文化財に関する研究成果をもとに、「つくる」「さぐる」「まもり、つたえる」ための知識と手法を実例を通して身につけることを目的とし、「歴史」「科学」「文化財」という観点から、作品制作へのアプローチを学ぶ。					
授業概要					
<p>対面授業。</p> <p>1. 古代から現代に至る各種材料を用いた工芸品の歴史や技術に関わる講義</p> <p>2. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財調査の手法や研究成果に関する講義</p> <p>3. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財保存の実際についての講義と体験担当教員はおもに埋蔵文化財の保存処理、修復に携わるとともに、さまざまな材質で製作された博物館・美術館資料等の調査や保存もおこなってきた。文化財保存科学分野では様々な資料・材質に対して特化した専門家がその任に当たっている。この授業では担当教員だけでなく、各分野の最前線で活躍している作家や保存科学者、修復家を招いて講義や体験も行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・前期、後期ともに3分の2以上の出席必須。</p> <p>・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。</p> <p>・授業中のPCやタブレット端末等電子機器の使用、撮影、録音は禁止。使用の必要がある場合は事前に申し出ること。</p> <p>・配布資料や画像等の扱い(2次加工や他者への公表など)に高い意識を持つこと。</p> <p>上記の事項を守り、円滑な授業の進行に協力してください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期授業への参加態度(毎回のコメントシート含む)			30		
前期末レポート			20		
後期授業への参加態度(毎回のコメントシート含む)			30		
後期末レポート			20		
教科書					
教科書1	必要に応じて資料を配付				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	トレハロースを用いた文化財保存の研究と実践				
出版社名	三恵社	著者名	伊藤幸司		
参考書名2	博物館資料保存論第2版				
出版社名	講談社	著者名	石崎武志		
参考書名3	博物館資料保存論				

出版社名	放送大学教育振興会	著者名	日高真吾
参考書名4	文化財をしらべる・まもる・いかす-国立文化財機構保存・修復の最前線-		
出版社名	アグネ技術センター	著者名	早川泰弘・高妻洋成・建石徹
参考書名5	文化財の保存と修復を学ぶ		
出版社名	藝術学舎	著者名	岡田文男
参考 URL			
{大阪市立自然史博物館,https://omnh.jp/#gsc.tab=0}			
特記事項			
先人の創作技術を知り過去の文化を未来に受け継ぐことは、私たちが果たすべき重要な役割のひとつです。それに伴って、美術品・工芸品・文化財を科学的に調査することで材料を知り、その技法を読み解くことは現代の表現者である皆さんにも有用な情報です。最新の調査研究の技術や成果について講義します。			
教員実務経験			
大阪市立自然史博物館保存科学担当主任学芸員の教員が、博物館現場での資料保存業務経験を活かして、作品保存の考え方や具体的な方法に関する授業をおこなう。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入-授業の目的と概要、評価方法などについて周知する		
2	美術工芸品の保存修復美術品の調査1-自然科学的手法を用いた構造調査		
3	美術工芸品の伝統的保存方法1-正倉院宝物の保存		
4	美術工芸品の保存修復美術品の調査2-自然科学的手法を用いた材質分析		
5	美術工芸品の保存修復美術品の調査3-自然科学的手法を用いた資料の観察		
6	美術工芸品の保存修復有機質製品の調査・保存修復1		
7	美術工芸品の保存修復木材利用の歴史-古代~近代の木材利用方法		
8	美術工芸品の保存修復有機質製品の調査・保存修復2		
9	美術工芸品の保存修復ガラス工芸品の保存修復技術		
10	美術工芸品の保存修復古代ガラスの復元技術		
11	美術工芸品の保存修復有機質製品の調査・保存修復3		
12	海外の文化財保存科学事情1		
13	美術工芸品の保存修復漆芸品の保存修復		
14	美術工芸品の保存修復タイルの復元制作		
15	前期授業のまとめ		
16	前期授業の補足説明提出レポート評価		
17	美術工芸品の保存修復遺構現地保存・剥ぎ取り技術		
18	美術工芸品の保存修復石造品の修復技術および作品の梱包方法		
19	美術工芸品の伝統的保存方法2装潢修理技術①		
20	美術工芸品の伝統的保存方法3装潢修理技術②		
21	美術工芸品の伝統的保存方法4仏像修理技術		
22	美術工芸品の保存修復金属工芸品の保存修復技術 1		
23	美術工芸品の保存修復金属工芸品の保存修復技術 2		
24	美術工芸品の保存修復土器の修復技術		

25	美術工芸品の保存修復古代編紐の制作技術
26	美術工芸品の保存修復染織品の保存修復技術
27	美術工芸品を生物被害からまもる技術
28	美術工芸品を災害からまもる技術
29	海外の文化財保存科学事情2
30	後期授業のまとめ

科目名	工芸特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	角倉起美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>工藝的アプローチによるプラグマティズムの実践を通して、独自の芸術制作行為を学術的なケーススタディにするためには、アクションリサーチの方法を活用することが有効的である。この過程で気づき力、認識力、理解力を養い、さらなる工藝の可能性を探るデザインシステムとプロセスを学ぶことが目的である。素材、環境、他者、自己との対話を通じた関係性のデザイン方法を実践し、リフレクションのための時間と状況、場（環境）をつくることが目標である。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】前期は、工藝的アプローチによる関係性のデザインの基礎理論を学び、プラグマティズムの実践とその学術的意義について探求する。またその過程で、ある特定の場所に存在する文化財建造物とともに保存・利活用される工藝意匠や事象について分析、考察する。後期は、近年のサイトスペシフィックに展開/拡張する工藝作品について、領域横断型の工藝概念と作品を探求する。この授業の一環として、アクションリサーチの手法を用いて、自らの芸術制作行為を学術的に分析し、実践と理論の統合を図る。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業においては、積極的に受講し、ヒト、モノ・コトとの対話を通じて学びを深めていく姿勢を求めます。また、授業内の学習だけではなく、図書館やデジタルライブラリ、博物館や美術館、ギャラリー、インターネットリソース、工芸作家や専門家との交流、ワークショップやセミナーなど、これらのリソースを活用し、領域横断型の学びと豊かな実践の幅を広げる努力を怠らないようにすること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業内レポート			30		
前期末レポート			20		
後期末レポート			20		
授業に取り組む姿勢			30		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1 授業中適宜紹介する。					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
博士(芸術)の学位を持つ陶芸家の教員が、文化財建造物を保存・利活用する社会貢献プロジェクトの実践研究や、多数の陶芸作品を制作、発表する経験を活かして、工藝的アプローチによる関係性のデザイン方法論を学ぶ授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス: 授業概要の説明をする。		
2	教員自己紹介: 陶芸作品制作研究・社会貢献プロジェクト研究		
3	イントロダクション工藝的アプローチによる関係性のデザイン方法論①: 対話による関係性のデザイン方法論の基礎理論概要を説明する。		
4	工藝的アプローチによる関係性のデザイン方法論②: 記号論概説。意味づけられた作品との対話による関係性のデザインプロセスを実践し、制作理論を探究する。		
5	工藝の歴史的概要①: 古代～中世～ルネサンス期の工藝の歴史について振り返り概観する。		
6	工藝の歴史的概要②: 近代～現代の工藝の歴史について振り返り概観する。		
7	ラチェット(累積)効果による工藝の進化①: 工藝の制作探究プロセスを道具の発明から考察する。道具の累積的な進化は、工藝の持続可能な発展と革新を促進させたことに注目する。		
8	工藝の進化②: 工藝の進化を「手工藝的進化」から考察する。産業革命以前の人工物の生産は一般的に機械を用いない手工藝であった。「手工藝的進化」は手仕事のライフヒストリーの中で小さな変更が加えられ、先達の経験の積み重ねとして連続的に「進化」していることを探究する。		
9	対話によるデザインプロセスの実践: 多様に変容する工藝作品が示してきた歴史は、多くの人材がその一部分に関わりながら受け継ぎ、少しずつ手を加えて次世代に継承されている。その中で工藝家がどのように関わったのか、関わり得たのか、その貢献の仕方を考察する。		
10	工藝的アプローチによる文化財建造物の保存と利活用: 歴史的文化財建造物を中心とした環境、さらに内包する工藝意匠を考察する。建築は「衣・食・住」を展開する場であり、構成要素として特に工藝の技術が集積されていることに着目する。		
11	国登録有形文化財「ヴォーリズ六甲山荘」の工藝意匠①: 工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。		
12	国登録有形文化財「ヴォーリズ六甲山荘」の工藝意匠②: 工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。		
13	京都市指定有形文化財「駒井家住宅」の工藝意匠: 工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。		
14	国登録有形文化財「睡鳩荘(旧朝吹山荘)」の工藝意匠: 工藝的観点から文化財建造物や技術を現実的に保存・活用・継承している事象を参照する。		
15	前期の振り返り、前期末レポートの課題説明。		
16	前期末レポートの内容についてリフレクションを行う①		
17	前期末レポートの内容についてリフレクションを行う②		
18	提示する工藝作品についてオープンディスカッションする。		

19	工藝品の保存・利活用:人工物が生活世界にどのような影響をもたらすかを常に帰結からその設計へフィードバックする回路を持つことが重要である。歴史的建造物の部材や古材を活用する取り組みから工藝の持続可能な循環型ものづくりに注目する。
20	工藝的アプローチによる他領域への視座:つくり手に立ったマイクロ見地からだけでなく、環境や社会を含むマクロ側面からも思考し、案出、創出していくプロセスを探索する。
21	拡張する工藝領域:工藝の持つ可能性に着目し、哲学や知恵、概念、技術にこれからの時代を見据える上で大きな示唆があることを考察する。社会に工藝をいかに実装させるかを探索する。
22	工藝と美術の違い:目的や対象、機能、制作過程などでの意味づけられた記号現象の段階に捉え項目別に考察する。
23	工藝の経年変化:工藝は歴史と時間を重ねるごとに、制作された時点の作品から時間の経過、使用、設置された環境によって変化するものがある。工藝特有の長い時間をかけて維持管理し、経年変化そのものを楽しみ、色や機能・性能が変わることさえも愛おしく、愛着が湧くような工藝品が存在する。工藝の多様な側面、要素の一つとして考察する。
24	展開/拡張された場における工藝作品の位置づけ:芸術制作の研究は自己制作としての作品の説明ではなく「行為の中の省察」と制作をした後に作品と対峙し、自己との対話を通して制作の意味に気づくことを言語化することである。言い換えれば、意味を伝達するだけではなく、自己との対話を通してデザインを構築するダイヤグラムのレイヤーを蓄積することである。この行為がまた次なる制作の可能性を拓く有効的なツールとなることを検証する。
25	サイトスペシフィックな工藝作品:工藝作品を単体、事物としての作品だけではなく制作した作品がどのような場や位置に展開され、その場の要素の中でどのように組み合わせられているのかが重要な意味を持つことについて考察する。
26	多領域で共有できる景観デザインについての概要:景観とは単に物理的なものの眺めだけでなく、景観が成立するためには「人が見る行為」が必要である。物理的な眺めと見る側の相互の関係で成り立っている。つまり、景観は知覚できる多種多様な要素間の集合であり、それを構成するのは観察者(五感を活用)である。景観デザインの要素を自らつくること、守ること、その関係性を育てていくことについても考察する。
27	ランドスケープデザインにおける「景観」と「風景」:ランドスケープデザインは他のデザイン分野とは異なり、人工的につくられた部分だけではなく、元からある自然なども全て含まれる。人為的にデザインされたランドスケープでも鑑賞する人々にとっては受容される環境全ての要素がランドスケープとして自覚される。工藝作品を展開する場としての要素を分析する手段としてランドスケープデザイン理論を探索する。
28	領域横断型の環境芸術作品:近年、国際的にもアートを活用した地域再生や環境保全などのアートプロジェクトが多く展開されてきた。多くの国でパブリックアートや、野外彫刻展が各地で受け入れられ展開されている。これは、ランドスケープの中で、アートを媒介に人と人をつなぐ新たな関係性のデザインが構築されており、社会システムの創出が実証されているからである。工藝的観点から、作品事例を取り上げて考察する。
29	記号過程を制作プロセスに当てはめ、独自の芸術制作研究を論ずる手段として試みる:芸術作品を制作する過程では記号の内部構造を制作することが求められる。意味づけられた記号現象に加える独自のテキストを多層と多様な制作プロセスの段階ごとに捉えリフレクションする。
30	後期の振り返り、後期末レポートの課題説明。

科目名	美術鑑賞論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度後期	形態	講義		
教員名	泉谷淑夫				
クラス名	【18以降生対象】				
授業目的と到達目標					
美術作品を幅広く受け入れて、それぞれの良さを味わい、造形への理解を深めるとともに、美術への関心を高めることが授業目的である。その過程で、多くの作品に触れながら自己を発見し、造形思考を磨いて豊かな鑑賞力を身につけることが到達目標である。このため授業に積極的に参加して貴重な鑑賞機会としていく姿勢が大前提となるので、欠席は極力回避すること。					
授業概要					
西洋の美術、日本の美術、前衛美術、身近な美術を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショーで提示して「考えながら見る」習慣を徐々に身に着けさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。なお、授業者は長年にわたり鑑賞教育に携わり、著書や多数の論文を執筆している。 一部、授業内容に変更が出る場合があります。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前に予備知識を入れるなどの必要はないが、とにかく授業に集中して臨み、気づいたことや考えたことなどをメモして、授業のまとめレポートの準備をすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
2 回の「授業のまとめ」レポート			80		
授業に取り組む姿勢			20		
教科書					
教科書1	美との対話-鑑賞への誘い-				
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	日本美術 101 西洋美術 101				
出版社名	三元社	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
<p>全部の講義に出席していても「授業のまとめ」レポートの記述内容から、著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。またレポートに授業内容と関係のない内容をたくさん書いても評価されません。2回のレポートの合格ラインはいずれも 60% です。</p>			
教員実務経験			
<p>教員は長年にわたり画家としての立場から美術鑑賞教育の実践研究に取り組んでいて、著書、論文、講演などを通して、美術鑑賞教育の必要性や重要性を説いている。有効な鑑賞の手法として、スライドショーによる比較鑑賞と対話型鑑賞を組み合わせた形態を開発している。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス美術鑑賞入門比較鑑賞トレーニング		
2	西洋美術入門①『レオナルドの《最後の晩餐》の謎』レオナルド以前の「晩餐図」から以後の「晩餐図」の変遷を見た後、レオナルドの《最後の晩餐》にまつわるいくつかの謎にアプローチしていく。		
3	西洋美術入門②『フェルメールと同時代の画家たち』現代のフェルメール・ブームの問題点に触れた後、フェルメールが活躍した 17 世紀オランダ絵画の状況を再現して、フェルメールの独自性を明らかにしていく。		
4	西洋美術入門③『ミレーの《落ち穂拾い》』ミレーの人物表現に焦点を当て、その特色を確認した上で代表作の《落ち穂拾い》を様々な類似作との比較鑑賞を通して、構図や主題の違いを浮き彫りにし、ミレーの《落ち穂拾い》の独自性を読み解いていく。		
5	日本美術入門①『UKB52 って何?』UKB52 を取り上げ、UKB の位置づけを確認した後、現代に通じるアイドルの売り出し戦略を考察するとともに、個々の UKB を鑑賞して、自分なりの「推し」を探す。		
6	日本美術入門②『どちらがスゴイ若沖と応挙』江戸時代中期を代表する若沖と応挙の徹底した比較鑑賞を通して、二人の対照的な造形の本質と魅力を引き出していく。若沖の『動植綵絵』や応挙の孔雀図などの代表作以外にも珍しい作品や近年発見された共作の屏風絵なども紹介する。		
7	日本美術入門③『歌麿美人画人気の秘密』歌麿の美人画がなぜ当時人気があったのかを、当時の出版事情の観点から多角的に探っていく。後半は歌麿美人画の代表作を取り上げ、大首絵の構図やポーズ、透かしの技法、母と子の情景などをじっくり味わっていく。		
8	「授業のまとめ」レポート①前半の授業の中から三つを選び、授業で学んだことや考えたこと、感想や意見などを授業の内容に沿って具体的に論述する。		
9	前衛美術①『生き続ける前衛精神デュシャン』今も前衛美術の神様として崇拝されるデュシャンを取り上げ、前半生をクール、後半生をホットと位置づけ、代表的な油彩作品やレディメード作品を比較鑑賞して、デュシャンの制作意図やメッセージを読み解いていく。		
10	前衛美術入門②『イメージの魔術師マグリット』シュルレアリスムの画家マグリットの造形の本質に言葉とイメージの関係から迫り、マグリットが創り出したイメージの連鎖性をイメージトリップとして楽しんだり、同一発想の絵を比較して、どちらがより優れているかを検証していくワークショップも行う。		
11	前衛美術入門③『リクテンスタインの冷めた革命』ポップ・アートの旗手リクテンスタインを取り上げ、美術史上のスキャンダルを紹介した後、リクテンスタインが素材にしたコミックスの原画と完成作の比較を通して、リクテンスタインがマンガから芸術を生み出したマジックを解明する。		
12	身近な美術入門①『ミュシャが長く愛される理由』アールヌーボーの旗手ミュシャを取り上げ、同時代のポスター作家たちとの比較を通してミュシャの造形の特徴を明らかにし、ミュシャが長く愛される理由を探るとともに、その造形への意外な影響源を探っていく。		

13	身近な美術入門②『ロックウェルの演出を読み解く』アメリカを代表するイラストレーター、ノーマン・ロックウェルを取り上げ、ユーモア溢れる作風を紹介した後、代表作の比較鑑賞を通して、構図の妙や作品に込められた深いメッセージをじっくり読み解いていく。
14	身近な美術入門③『文字なし絵本に学ぶ』絵本のメディア性が最も生かされている文字なし絵本の世界を、三つの代表的絵本を通して味わう。後半は日本とアメリカの代表的な文字なし絵本を比較鑑賞し、共通点や相違点の発見から日米の絵本表現の違いを解明していく。
15	「授業のまとめ」レポート②後半の授業の中から三つを選び、授業で学んだことや考えたこと、感想や意見などを授業の内容に沿って具体的に論述する。

科目名	美術特論Ⅳ	年次	3	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	泉谷淑夫				
クラス名	【18生対象】				
授業目的と到達目標					
前期と後期で限定的なテーマを設定し、豊富な視覚飼料を駆使して絵画への理解と関心を深めていくとともに、貴重な作家研究の場にもしていくのが目的である。また、様々な作品や考え方との出会いを通して、受講生なりの絵画観や評価観を育てていくのが到達目標である。					
授業概要					
前期のテーマは『浮世絵 300年の精華』、後期のテーマは『ロマン主義と象徴主義の絵画』で、それぞれ代表的な画家とその作品の紹介を通して、根底にある考え方や特徴的な表現を探っていく。作品鑑賞においては対話形式を取り入れ、受講生の積極的な意見発表を求めていく。前半と後半に各3回授業レポートが課される。なお、内容が一部変更されることもある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備は特に必要ないが、授業中に気づいたことや自分なりに考えたことを記録しておき、レポート作成の前に読み返して、理解の定着をはかることが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題レポートと2回の授業レポートおよび授業に取り組む姿勢を総合して評価する。			100		
教科書					
教科書1	特にありません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	授業の中で適宜紹介します。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業者は長年にわたり、自身の制作と絡めて浮世絵とロマン主義や象徴主義の絵画を研究している。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイドンス浮世絵入門浮世絵の概要として出版の仕組みやジャンル、代表的作家や彫りや摺りの技法、幅広い表現領域などを関連図版とともに紹介し、浮世絵への導入を図るとともに、明治期以降の展開にも目を向けていく。
2	浮世絵のルーツ彦根屏風と風俗図浮世絵のルーツとして江戸時代初期の様々な風俗図を取り上げる。中心は彦根屏風で、作品の造形的分析を行い、時代背景も探る。彦根屏風の比較として松浦屏風や寛文美人図、浮世絵初期美人画なども取り上げる。
3	美人画の系譜鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、溪斎栄泉の4人の代表的美人絵師を取り上げ。美人画を比較鑑賞で深く味わうとともに、代表的な4人の作家について作品からそれぞれの魅力と個性を掘り下げていく。
4	謎の浮世絵師・写楽と長喜東洲斎写楽の第一期と第二期の役者絵作品から写楽の個性を見極め、第三期作品からは贋作の可能性も検証し、写楽別人説についても山東京伝、喜多川歌麿、英松斎長喜を例に挙げ、独自に追求していく。中でも謎の多い浮世絵師である長喜については詳しく触れていく。
5	歌麿と北斎の絵本美人画で有名な歌麿の狂歌絵本『画本虫撰』と『百千鳥』を取り上げ、細部鑑賞を駆使して、若き日の歌麿の卓越した観察力と描写力をじっくりと味わっていく。一方、名所絵で有名な北斎の絵本『富嶽百景』を取り上げ、『富嶽三十六景』と比較しながら、霊峰・不二への飽くなき執念と新趣向の数々を見て行く。
6	西洋を学んだ江戸の絵師たち江戸時代中期に見られる洋風画の発生と展開に焦点を当て、鎖国体制の中で町絵師たちが西洋画を独自に学んでいた様子を紹介する。小田野直武、司馬江漢、亜欧堂田善の他、浮世絵師では鳥居清長、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳などを取り上げる。
7	もうひとつの北斎・肉筆画の世界『富嶽三十六景』一般によく知られる版画ではなく、北斎が晩年に多く手掛けた肉筆画の鑑賞を通して、葛飾北斎の真の画力を探っていく。得意とした鳥や龍の肉筆画の他、美人画や風俗図などの珍しい作も紹介していく。
8	授業レポート①前半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
9	日本人の心のふるさと歌川広重の風景世界を、版画の初摺り・後摺り・変わり版で比べたり、『東海道五拾三次』の人気の秘密を探ったり、雨・雪・月の詩情をじっくり味わったりする。また『東海道五拾三次』の元絵との比較やあまり知られていない『六十余州名所図会』の紹介、ライバル北斎との関係や晩年の『名所江戸百景』にも迫っていく。
10	浮世絵のあらゆるジャンルをこなした人気絵師歌川国芳を取り上げ、若き日の国芳の代名詞である武者絵に始まり、今日評価の高い洋風風景画の数々、国芳の真骨頂・大判三枚続きのワイド作品群、さらには国芳が憧れた先輩絵師との比較、そして得意の猫絵やだまし絵などをじっくりと読み解いていく。
11	浮世絵の影響を中心にジャポニズムの諸相を見ていく。ジャポニズムを「日本趣味の流行」「日本的大胆構図の借用」「日本的表現への全面的傾倒」の三段階に分け、それぞれの実例を浮世絵との比較で検証していく。合わせて「橋のジャポニズム」などの特定モチーフでの作例や、作家ごとのジャポニズムを紹介していく。
12	近代の美人画松園、深水、清方近代の美人画を比較鑑賞で楽しむ。取り上げるのは上村松園、伊東深水、鍋木清方の三人で、日本画画壇で活躍した松園、深水、清方の代表的画業を紹介し、日本画に引き継がれた浮世絵美人画の伝統と人物表現における変化を明らかにしていく。

13	大衆に愛された美人画夢二と雪岱大衆美術の世界で活躍し、多くの人から愛されたた竹久夢二と小村雪岱の個性あふれる作品を美人画を中心に見て行く。夢二の特異性を明らかにするために、松園や深水、清方の作品との比較や夢二が研究したと思われる西洋絵画との比較も試みる。
14	近代東京の叙情清親と巴水の風景画明治時代に「光線画」で一世を風靡した小林清親と大正から昭和にかけて活躍した最後の浮世絵師の一人で、海外でも人気の高い川瀬巴水の画業を紹介する。清親の代表的シリーズ『東京名所図』に見られる光線画や「夕暮れ巴水」とも呼ばれる巴水の黄昏時を描いた風景画を紹介し、彼らの作品に引き継がれた歌川広重の叙情性を探っていく。
15	授業レポート②後半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
16	ガイダンス想像力の覚醒と飛翔西洋美術史の19世紀におけるロマン主義絵画の発生や象徴主義絵画の誕生の系譜をゴヤ、ルンゲ、ジョン・マーチン、シュワーベ、クプカなどの関連作家の作品で見ていき、全体の導入とする。
17	自然との寡黙な対話フリードリヒとその周辺ドイツ・ロマン派の旗手フリードリヒを取り上げ、フリードリヒが自然と人間の関係をどのようにとらえていたのかを、フリードリヒの主要モチーフである檜の木や山、後姿の人物、人物と月、人のいない光景などから探っていく。フリードリヒ周辺の画家についても紹介する。
18	近代文明に背を向けた画家ベックリン後期ロマン派の画家で、《死の島》の作者として知られるベックリンを取り上げ、主要モチーフである樹と雲、神話と寓意、闘いや戯れ、海辺の情景、廃墟、そして死の島などの切り口から、ベックリンの芸術を詳しく掘り下げていく。
19	耽美的な物語世界モローとファンタン・ラトゥール19世紀後期フランスの象徴主義の画家モローを取り上げ、プロフィールへの執着という観点から、魅惑的な造形を鑑賞していく。プロフィールへの執着以外では、神々の世界、オルフェイスの首、サロメのシリーズ、晩年の水彩画などに焦点を当てていく。また写実と象徴の狭間の世界を幽玄的に表現したファンタン・ラトゥールの貴重な肖像画、集団肖像画、物語画も紹介する。
20	モノクロームと色彩美カリエールとルドンフランスの個性的な象徴主義者であるカリエールとルドンを取り上げて、19世紀末から20世紀初頭の象徴主義絵画の一端を見ていく。カリエールは茶褐色のモノクローム表現による幽玄な人物画や母と子をモチーフとした風俗画を、ルドンは画業前半の石版画による白黒の幻想世界と後半の色鮮やかな幻想世界を対照して紹介していく。
21	不安な人間像ムンクとアンソールノルウェーの画家ムンクとベルギーの画家アンソールの、きわめて個性的かつ象徴主義と表現主義的の間に位置する表現を、それぞれの代表作を通して見ていく。ムンクは初期作品から《叫び》や《橋の上の少女》に至る過程を、アンソールは得意とした仮面の不条理劇に焦点を当てていく。
22	世紀末ベルギーの夢想クノップフとロップスベルギーの象徴主義者クノップフの謎に包まれた作品群に多角的にアプローチしていく。不思議な雰囲気をつたえた肖像画や夢の世界のような風景画を手始めに、難解な寓意画の数々、そして代表作の《メモリーズ》へと迫っていく。この貴族的なクノップフに対して性をあからさまに表現する手法で人間の本質を暴き出すスタイルを得意としたロップスの「悪徳の美」を対置して紹介する。
23	授業レポート①前半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。
24	高原の楽園と聖母子アルプスの画家セガンティーニを取り上げ、ミレーに感化された初期作品から最晩年のアルプス三連画まで、セガンティーニの働く人物像や後姿の人物像、祈りのポーズと母子像、高原の楽園、牛のいる風景、アルプスの大自然と人、高原の幻想空間などの視点から、セガンティーニ絵画の神髄に迫っていく。
25	ドイツが生んだ若き才能クリンガーとフォーゲラー早熟の天才クリンガーを取り上げ、精緻な描写から生まれる幻想世界を見ていく。特にクリンガー芸術を特徴づける版画のシリーズに焦点を当て、有名な『手袋』のシリーズをはじめ、『間奏曲』『ある生涯』『ある愛』『ブラムス幻想』『死について』などを紹介し、最後に貴重な油彩画の代表作にも触れていく。同様に早熟の天才であったフォーゲラーの繊細で清新な感覚から生まれた「春」のイメージの傑作群も紹介していく。
26	生命の賛歌とパレリスムスイスの世紀末画家ホドラーを取り上げ、演劇的ポーズをした象徴的な人物表現と、パレリスムに基づく群像構成に焦点を当て、それらを造形的に読み解いていく。初期

	<p>の生活の中の人物像と象徴性の強い単身の人物像を経て、バラレリズムの群像表現に到達する流れを見ていく。また象徴的な光に満ちた魅力的な風景画も紹介する。</p>
27	<p>古都ウィーンに咲いた二つの花クリムトとシーレ 19 世紀末から 20 世紀の初頭のウィーンで活躍したクリムトとシーレの二人を取り上げ、師弟関係にあった二人の相互影響関係も見ていく。クリムトでは装飾性豊かな神話画を中心に、個性的で華麗な肖像画にも触れていく。シーレでは自画像を核とする独特な人物表現を中心に、人間性をえぐるような肖像画の数々も紹介する。</p>
28	<p>ミステリアスな沈黙ハマスホイ近年評価が高まっているデンマークの画家ハマスホイを取り上げ、独特な静寂に満ちた世界を見ていく。「後姿の人物のいる室内風景」「人物のいない室内風景」「静けさが支配する都市風景」「語りかける木立」「抒情的な田園風景」などの様々な切り口でハマスホイ絵画世界にアプローチし、その魅力に迫っていく。</p>
29	<p>絵本オールズバーグの謎めいた世界アメリカの絵本作家オールズバーグの絵本世界を紹介する。日本デビュー作の『西風号の遭難』や見開き画面に迫力ある絵を配した『ゆめのおはなし』、白黒表現でアルファベット 26 文字にふりかかる災難をリアルに表した『THEZWASZAPPED』などを読み解きながら、絵本における象徴表現の可能性について考えていく。</p>
30	<p>授業レポート②後半の授業に関し、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家についての論述を行う。</p>

科目名	製図実習	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度前期～後期	形態	実習		
教員名	田中雅文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アイデア相互理解、また製作を依頼(受注)する場合、その伝達には正確な図面が必須である。基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。					
授業概要					
<p>基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。</p> <p>これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイデアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出			80		
受講姿勢			20		
教科書					
教科書1	「製図実習」セラミックコース				
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南和伸		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{田中雅文 Officialsite,http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html}	
特記事項	
陶磁器制作を専門とする中で素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。	
教員実務経験	
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明。陶芸における製図の概要、準備物等の説明
2	製図の機能と役割(見やすい図面を作成する基本的な考え方) 製図用具の種類と使用法
3	図面の大きさと様式、線の種類、文字の書き方 正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする
7	湯呑みの製図 4 製図作業
8	湯呑みの製図 5 製図作業
9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ&ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ&ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ&ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ&ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ&ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ&ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1 面型鑄込みカップの制作 1 デザインの考察
22	1 面型鑄込みカップの制作 2 図面作成
23	1 面型鑄込みカップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1 面型鑄込みカップの制作 4 石膏原型制作
25	1 面型鑄込みカップの制作 5 石膏原型制作
26	1 面型鑄込みカップの制作 6 使用型制作
27	1 面型鑄込みカップの制作 7 使用型制作
28	1 面型鑄込みカップの制作 8 泥漿制作
29	1 面型鑄込みカップの制作 9 鑄込み作業
30	1 面型鑄込みカップの制作 10 生地完成総括

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	谷口貞久				
クラス名	F				
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題			90		
授業態度や授業に取り組む姿勢等			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

子供絵画・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。(公社)二科会会員

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成
2	課題1:基礎デッサン1 「グレースケール・遠近法基礎」...ティシュー箱 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 遠近法基礎知識及びモチーフによる遠近法の使い分け
3	課題1続き
4	課題2:基礎デッサン2 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)」...玉ねぎ又はリンゴ又はパプリカ・紙コップ・立方体・いろ紙 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
5	課題2続き
6	課題3:遠近法応用「校舎デッサン」 構造物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
7	課題3続き
8	課題3続き
9	課題3続き
10	課題3続き
11	課題4:想定デッサン 「遠近法を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び講評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題4続き
13	課題4続き
14	課題4続き
15	課題4続き・講評

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	小谷訓子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業は、本学建学の精神を表す五角形の理念全てに関わる「基礎的な芸術力」を養う教科として、西洋美術史の基礎的な知識を身につけてもらうことを目的とする。西洋古代からの芸術作品を歴史の流れの中で学ぶことは、学生が時代に即しながら「自己」や「自己流」そして自分の作品を創造する時に、重要な刺激やインスピレーションを与える。授業のコンテンツが「過去」の「西洋」の「芸術作品」であることから、五角形の中でも特にCREATIVITYとGLOBALの側面に深く関わっているところの「基礎的な芸術力」を育成することがこの授業の目標である。					
授業概要					
この授業では、主に絵画、彫刻、建築を取り上げ、西洋世界における美術の歴史を学んでいく。その手続きとしてまずは、各芸術作品の「線」「色彩」「光」「構成(構図)」「形態」「空間」「媒体」を分析し、その作品が所属する時代と地域における様式的特色を認識する。その上で、作品に映し出された社会の状況、政治的なメッセージ、イデオロギー、慣習、作家の意図やパトロン在意図などを歴史的に把握していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
毎週、授業に関する指示や詳細をUNIPAでチェックすること。 授業資料のスライド・リストと教科書を参考に、毎回の講義内容をノートに書きとめて、復習をしっかりとすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期末試験			45		
後期末試験			45		
授業の取り組み・伸び率・その他			10		
教科書					
教科書1	『西洋美術史』				
出版社名	美術出版社	著者名	秋山聰・田中正之監修		
教科書2	『いちばん親切的な西洋美術史』				
出版社名	新星出版社	著者名	池上英洋他著		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業内容や、進行のペースを変更する場合があります。			
教員実務経験			
最終学歴がアメリカの大学院の Ph.D.なので、アメリカでの研究生活が長く、留学中にプリンストン大学付属美術館においてルネサンス期の素描作品の展示会を2回ほど部分担当したこともある。その他イタリアやフランスなどヨーロッパにも研究調査だけでなく留学経験もあるので、グローバル・スタンダードを意識した授業を展開する。但し、この授業に関しては西洋美術史の概説なので、それほど専門的なことには触れず、芸術作品を分析する際に必要な基本的なポイントを講義する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション: 西洋美術史という学問について		
2	古代ギリシャ美術		
3	古代ローマ美術		
4	古代美術の総まとめ		
5	初期キリスト教美術とビザンチン美術		
6	ロマネスク美術		
7	ゴシック美術		
8	中世美術の総まとめ		
9	初期ルネサンス美術		
10	イタリア・ルネサンス美術①		
11	イタリア・ルネサンス美術②		
12	北方ルネサンス美術		
13	ヴェネツィア・ルネサンス美術		
14	ルネサンス美術の総まとめ		
15	古代美術・中世美術・ルネサンス美術の総括と前期末試験		
16	マニエリスム美術		
17	バロック美術①		
18	バロック美術②		
19	ロココ美術		
20	ルネサンス・バロックから近代世界へ		
21	新古典主義美術		
22	ロマン主義美術		
23	19世紀美術①		
24	19世紀美術②		
25	印象主義絵画		
26	ポスト印象主義絵画		
27	20世紀美術①		
28	20世紀美術②		

29	モダン・アート総まとめ
30	16世紀～20世紀美術の総括と後期末試験

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2026 年度前期～後期	形態	講義		
教員名	石井元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神の国際的視野に立って、西洋美術作品の鑑賞を通じ、西洋美術の見方・考え方を学ぶと共に、ヨーロッパ社会の美術や文化との豊かな関わりを理解し、美術を愛する心と豊かな感性を育む。明治以降、日本が手本としたヨーロッパにおける美術の流れを大まかに理解して、近代から現代に連なる日本美術の理解を助け、ひいては現代を生きるための知識と感性を養う。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】古代ギリシア・ローマ文明から説き起こし、完成された一つの文明としての古代ヨーロッパ世界を理解する。ついで、キリスト教が中心となる中世の社会や美術を理解する。その後、古代と中世の交わる文明としての15世紀の初期ルネサンスにまで到達する。 作品に込められたメッセージや政治性・社会性をも理解し、美術作品を「読む」作業を繰り返し行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高校レベルの世界史の基礎知識を持っていることが望ましい。世界史を選択しなかった場合でも、『もういちど読む山川世界史』などである程度の知識を得てから出席してほしい。また、授業中に出てきた作品については図書館で調べてより深い理解へと向かう努力をしてほしい。 美術史も知識の積み重ねが物を言う。したがって、授業で解説したことは、その日のうちにしっかりと復習して、次の回に備えてほしい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験(2/3の出席が受験の前提)			100		
教科書					
教科書1	カラー版西洋美術史				
出版社名	美術出版社	著者名	高階秀爾監修		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	西洋絵画の主題物語Ⅰ 聖書編Ⅱ 神話編(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修		
参考書名2	新装版西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール		
参考書名3	小学館世界美術大全集				
出版社名	小学館	著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション「美術作品をいかに『読む』か」 まず、科目の名前を「西洋」「美術」「歴史」に分けてそれぞれの意味を説明し、本講義で何を扱うのかを解説する。ついで、ティツィアーノとマネの作品を取り上げながら、そこに込められたメッセージの解説を行なう。		
2	様式から古典様式までのギリシア美術 1「クレタ美術とミュケーナイ美術」 ギリシア半島における文化の発展に先立つ時代を取り上げる。その中で、古代地中海世界の超先進国であったエジプトからギリシア世界がいかに多くのことを学んだかを理解する。		
3	様式から古典様式までのギリシア美術 2「陶器画の発展」 幾何学模様の時代からコリントスを中心とする動物文の陶器、そしてアテナイで制作されたアッティカ様式の壺絵の展開を概説する。その中で、ギリシア美術、すなわち、ヨーロッパ美術の中核をなす人間への関心のあり方を理解する。		
4	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 3「エトルリア美術とギリシア古典期の建築」 ギリシア文明とほぼ同時代にイタリア半島で栄えたエトルリア美術について理解する。また、ギリシア美術の最盛期と考えられる古典期の建築様式について理解する。その際、ヨーロッパ建築様式の基礎をなすイオニア、ドーリア、コリントスなどのオーダーについて学ぶ。		
5	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 4「彫刻の発展」 クリティオス作《少年像》に端を発し、厳格様式、古典様式へと展開するギリシア彫刻の流れを理解し、その中核にある「コントラポスト」の概念について学ぶ。		
6	「白い文明」DVD NHK で放送された番組を鑑賞し、「ヨーロッパ文明の揺り籠としてのギリシア文明」という概念がいかにして作られていったか、そしてギリシア文明が純粋な「白い文明」として捏造されたかを理解する。		
7	「ヘレニズム美術」 アレクサンダー大王の死以降の時代を扱う。ヘラ(国としてのギリシアのギリシア語名)の文化が地中海の大きな領域へと拡大していくヘレニズム(ヘラ風)文化の特質と、我々が知るギリシア彫刻の多くがこの時代に属することを理解する。その中で宗教と密接に結びついていた美術が変質する様子を学ぶ。		
8	ローマ美術 1「アウグストゥスの時代まで」 共和制から王政に至るローマの歴史と文化を理解する。現代社会の基礎が古代ローマにあることを理解する。「パリスの審判」から「ローマの建国」に至る所謂ローマ建国神話について学ぶ。		
9	ローマ美術 2「アウグストゥスの時代以降」 初代皇帝となるアウグストゥスの時代から五賢帝時代を経て、ローマの滅亡へと至る時代と美術の流れを理解する。そこに見える歴史主義・記録主義という、ギリシア文明と異なるローマ文明の特質を理解する。		
10	ローマ美術 3「ポンペイの遺跡」 紀元 79 年に起こったヴェスヴィオス山の噴火によって埋没した古代都市ポンペイの悲劇と現在の研究状況について学ぶ。395 年に東西に分裂したローマ帝国の西半分(西ローマ帝国)が 476 年に滅亡するまでの末期の歴史と文化を学ぶ。		

11	「ローマ帝国」DVD NHK で放映された番組を鑑賞し、ローマの繁栄と滅亡の原因を探る。現在進行中の我々の現代文明の行き先をも占う古代ローマ帝国の状況を学ぶことで、我々が今後どのように生きるべきかを考える。
12	「キリスト教における救済のメカニズム1」 姉妹宗教と言われるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関連を考え、その中で何故キリスト教は生まれなくてはならなかったのか、すなわち、神はキリストを通じてどのように人々を救済しようとしたのかを理解する。その中で「ゴルゴタ」や「受肉」の意味も解説される。
13	「キリスト教における救済のメカニズム2」 キリスト教の教義が説く救済のメカニズムが、美術作品の中にどのように現れているかを、作品を見ながら理解する。
14	「初期キリスト教美術1」 古代世界と重なるキリスト教誕生期の歴史を学び、その中で自らの信仰を隠すために人々がいかにかに隠語的な図像を生み出していったかを理解する。
15	「初期キリスト教美術2」 キリスト教が弾圧されていた時代に殉教した人々が、教義によってどのように聖人の列に加えられたか(列聖)を理解し、聖人伝や聖人の典型的図像が生み出されていく様を学ぶ。
16	「教会の勝利の時代」 コンスタンティヌス帝によりキリスト教が許され、ついで国教になると、キリスト教の教義確立が目指された歴史を学ぶ。その中で、図像がどのように変化していくかを理解する。
17	「ビザンティン美術」 西ローマ帝国で社会・文化が大きく変化していった時代に、東ローマ帝国ではどのような動きがあったのか、政治と宗教はどのような関係にあったのかを理解する。また、その後移ってきたトルコ人によりイスラム教が信仰され、その中でキリスト教の教会が変容していくことを理解する。
18	「初期中世美術1」 ゲルマン民族の移動とそれに続くフランク王国の成立によって現代のヨーロッパの基礎が築かれたことを理解する。写本装飾に関連して、写本、印刷、修道院などの歴史について学ぶ。
19	「初期中世美術2」 写本装飾の作品を鑑賞し、修道院や貴族の邸宅における写本制作について学ぶ。日本人の繊細な装飾感覚に近い、ケルト人の装飾について理解を深める。
20	「ロマネスク様式1」 聖遺物崇敬やロマネスク建築の構造について理解する。聖ヤコブの遺体の発見が引き起こした全ヨーロッパ的な巡礼の動きと、それに基づく聖堂の構造変化について理解する。
21	「ロマネスク様式2」 栄光のキリスト図像について学び、それが意味する修道院を中心としたこの時代の宗教活動を理解する。
22	「ゴシック様式1」 文化の担い手の社会層が一段下がることによって、宗教美術のあり方が変わることを、それが修道院長シュジェールの下にサン・ドニで起こることを理解する。「聖母マリア」を重視する教義が現れることも学ぶ。
23	「ゴシック様式2」 各地に大聖堂が数多く建設され、その装飾の中でステンドグラスが生まれることを理解する。
24	「国際ゴシック様式1」 14世紀社会的混乱と封建制の動揺、すなわち、教皇のアヴィニョン幽囚、教会の大分裂(シスマ)、黒死病の流行、百年戦争などについて学び、その中で貴族を担い手とする優美な美術が生まれることを理解する。
25	「国際ゴシック様式2」 同じ時代にイタリアでジョットが絵画に革新を起こし、それによって遠近法の基礎が築かれたことを理解する。また、その変革が社会的な変質によって引き起こされたものであることを学ぶ。
26	「国際ゴシック様式3」

	ジョットと同時代のシモーネ・マルティーニの作品や、ジョットに先立つニコラ・ピサーノの彫刻作品について学ぶ。
27	「ルネサンス概説1」 ルネサンスの概念とそれを生み出した15世紀前半のフィレンツェの美術を理解する。特に建築におけるブルネレスキ、彫刻におけるドナテッロ、絵画におけるマザッチョの役割を学ぶ。
28	「ルネサンス概説2」 マザッチョに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ絵画について学ぶ。
29	「ルネサンス概説3」 ドナテッロに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ彫刻について学ぶ。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験。

科目名	図学	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度前期～後期	形態	講義		
教員名	壺井勘也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
図学を通して知るデザインの楽しさとおもしろさを具体的に理解し、世界各地に存在する建築構造物はもとよりビジュアルに表現されたデザイン商品からプロダクトデザイン・インダストリアルデザインに応用された製品やファッション界における楽しいグッズに至るまでのデザイン力をつける					
授業概要					
対面授業で行う。前期(具現化された形態を基に図学の基本を習得する) 後期(具体的に表現方法を理解し作図による演習をする) 造形作家、公共事業、モニュメントを制作するにあたり、完成予想図を作成する技術を習得する。 高校美術・工芸教諭としての基礎知識、作図、画法の習得が必須。 以上今日までの職務経験において必要とされる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
特に後期からの授業においては配布された資料をもとに事前に予習し、理解を深める。講義された内容を反復する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	古代エジプトに始まる幾何学の理解と学習。
2	古代ギリシャにおける数学を応用した幾何学の説明。
3	古代ローマにおける遺跡に見られる建造物から始まる形態の学習。
4	江戸期における日本の実測図学の歴史を研究。
5	日本における幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。
6	ヨーロッパにおける幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。
7	生活・文化の中に息づく図学について考察。
8	生活・文化の中に息づく図学について考察。
9	生活・文化の中に息づく図学について考察。
10	生活・文化の中に息づく図学について考察。
11	インテリアデザインに活用された図学の基本。
12	ビジュアルデザインに活用された図学の基本。
13	インダストリアルデザインに活用された図学の基本。
14	コンストラクション・コンポジションの理解。
15	一点透視図法の技法を習得。
16	一点透視図法の技法を習得。
17	一点透視図法の技法を習得。
18	二点透視図法の技法を習得。
19	二点透視図法の技法を習得。
20	二点透視図法の技法を習得。
21	アイソメ投影法の研究。
22	アイソメ投影法の研究。
23	アクソメ投影法の研究。
24	アクソメ投影法の研究。
25	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
26	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
27	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
28	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
29	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
30	自動車のパースを自由課題として提出。

科目名	金工論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度後期	形態	講義		
教員名	植田千香子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>金属工芸の基礎知識を理解して学び、金属工芸で用いられている技法(彫金・鋳金・鍛金)・歴史を知り、現代の金属工芸について学ぶ。 受講を通じて金工の基礎的な知識、技法、作家のものづくりへの姿勢を学び各自の作品制作に結びつける。</p>					
授業概要					
<p>金属工芸では様々な作品が作られている。時代の特徴的な作品をピックアップし、それらはどんな技法、素材で作られたかを深掘りする。プリント、動画等を用いて解説していき、各自の作品制作の手助けとする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出感想文			60		
受講態度			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	工芸家のための金属ノート金属ノート				
出版社名	香取一男	著者名	香取一男		
参考書名2	金工の伝統技法				
出版社名	理工学社	著者名	香取正彦・伊尾敏雄・井伏圭介		
参考書名3	金工の着色技法				
出版社名	理工学社	著者名	長野裕・伊尾健二		
参考書名4	黄金有情				
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

鍛金作家の教員が幅広い視野で金工について述べます。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	授業説明 金属工芸の主な技法 彫金 鑄金 鍛金
2	金属の成立ち □金銀銅錫鉄「五金」について ※金属キャラ
3	縄文弥生時代 □青銅器 銅鐸 銅鏡 銅戈について ※マイ銅鐸
4	※おさらいクイズ
5	古墳時代 藤木古墳 □彫金について(魚子毛彫蹴り彫り打ち出しなど) ※マイ古墳
6	奈良時代 大仏 □鑄造について ※マイ大仏
7	平安時代 平泉 金色堂 □金箔について ※マイ玉手箱
8	刀 □刀鍛冶 刀剣クイズ
9	兜 □かわり兜 ※マイ兜
10	茶道お茶道具 □鍛金について ※侘び寂びとは
11	幕末・明治の刀装金具 □彫金について(象嵌など)
12	幕末明治の超絶技巧 □煮色仕上げについて
13	幕末明治の超絶技巧 ※おさらいクイズ
14	□根付けを考える ※マイ根付け
15	※根付けアイデアの発表

科目名	陶芸論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	東野真紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶芸の歴史を学び、土器や陶器や磁器といった焼物の魅力を学び、日本の文化の多様性と普遍性について、国際的視野に立っての展開に基づき、概観することを目的とする。 また陶芸に関して、美術工芸、文化と広く学ぶことにより、新しい視野で考えることができるよう、知識を増やす様々な経験を増やすよう、歴史の文脈を知って、作品を作るとき自身の創造性を豊かにするようになる。					
授業概要					
日本の陶芸について、縄文時代から現代に至るまでの歴史を、社会的・文化的な背景を考えながら、その特徴をとらえる。縄文土器、渡来した須恵器、茶の湯とともに洗練された中世の工芸、近世の磁器の意匠などについて説明する。 また可能な状況であれば、武者小路千家の教職を持つ教員とともに茶の湯点前の体験をする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
レポートを必ず提出すること。 陶芸のみならず、日本の美術や工芸に関する展覧会を積極的に見に行くこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度・小レポート			50		
レポート			50		
教科書					
教科書1	増補新装[カラー版]日本やきもの史				
出版社名	美術出版社	著者名	荒川正明		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【対面】陶芸史概説日本の歴史の大きな流れを捉える。
2	【対面】縄文土器について長い歴史を持ち、強い個性を持つ縄文土器について学ぶ。
3	【対面】弥生土器について技法的には大きく変化をしないながらも、変化のあった弥生土器について学ぶ。
4	【対面】須恵器について アジアの文化・陶芸の影響について考える。
5	【対面】中世の文化と陶芸について
6	【対面】茶の湯の文化と陶芸について1
7	【対面】茶の湯の文化と陶芸について2
8	【対面】茶の湯の文化と陶芸について3
9	【対面】近世の陶芸について1
10	【対面】近世の陶芸について2
11	【対面】近世の陶芸について3
12	【対面】近代の陶芸について1
13	【対面】近代の陶芸について2
14	【対面】現代の陶芸について
15	【対面】授業のまとめ・レポート発表

科目名	染織論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度後期	形態	講義		
教員名	館正明、尾原久永				
クラス名					
授業目的と到達目標					
建学の精神の総合のための分化と境界領域の開拓に基づき、新分野の開拓につとめるため、染織やテキスタイルに関する事柄を体系的に学び、染織家やテキスタイルデザイナーとしての創造性ある知識の習得を目的とする。受講により得た知識を各自の制作、研究へ反映させることを目標とする。					
授業概要					
各回毎に染織に関わるキーワードを挙げ、画像や動画による講義を行う。(館) テキスタイルデザインの変遷とテキスタイル産業の未来までを具体的な事例を通して講義する。(尾原)					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
染織やテキスタイルに関する情報等を取集し、展覧会等を見に行くこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			40		
授業態度			40		
プレゼンテーション			20		
教科書					
教科書1	適宜必要な資料を配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	染み染み染みる日本の心「染め」の文化				
出版社名	淡交社	著者名	福本繁樹		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

(館)染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし、染織に関する講義を行う
 (尾原)現役テキスタイルデザイナー及びデザイン会社経営者の教員が実践で得た知見を生かし、テキスタイルデザインに関する講義を行う

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	染織について
2	「染め」について①
3	「染め」について②
4	「織り」について①
5	「織り」について②
6	テキスタイルデザインについて①(私の染織論—私のこれまでの変遷)
7	テキスタイルデザインについて②(テキスタイルデザインの変遷—日本と海外)
8	テキスタイルデザインについて③(色彩の考え方—流行色)
9	テキスタイルデザインについて④(プロモーション—展示会や情報発信、PR)
10	テキスタイルデザインについて⑤(これからのテキスタイル産業)
11	「ファイバーアート」について
12	「染織と現代美術」について
13	「染織と反復」について
14	「染織と偶然」について
15	プレゼンテーションと授業のまとめ

科目名	服飾史	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	中野朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の服飾の成立過程とあり方、現在に受け継がれる「きもの」文化の発生と変遷や多様性について講義する。日本の衣服の根源と流行の創造、継承について知り、考えることで、自身の作品制作の基礎知識、舞台衣裳等の選定の際の基礎知識、絵画制作に際しての基本知識等をひろく学び、創作活動に活用することができるようになることを目標とする。					
授業概要					
日本の服飾文化に関して、中国文化の影響と日本独自の服飾文化の成立・発展、社会状況の変化と服飾文化の変容(「きもの」の成立)、染織技術の発展と流行の発生・変遷に重点をおいて授業を行う。特に、江戸時代の染織技術の発展とそれに伴う流行の発生・変遷について大阪や京都を中心とした地域に焦点を当てながら丁寧に紹介する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
日本の服飾史について取り扱う講義である。 ※西洋服飾史については取り扱わないので注意すること。 《予習》 ・日本の服飾について論じるため、日本における各時代の時代区分等についてあらかじめ予習して授業にのぞむことが望ましい。 ・きものや服飾に関連する展覧会などに足を運ぶことを推奨する。 《復習》 ・授業中に紹介する作品あるいは関連する絵画作品等が掲載された書籍・図版等を図書館等で確認することで授業内容を復習することが望ましい。 《評価》 ・評価は下記によって総合的に行う。 (1)授業内容を確認するためのリアクションシートの記入・提出 (2)授業に取り組む姿勢 (3)期末に実施するレポート課題 (4)その他 必要に応じて教員が指定する展覧会の見学レポートを実施する場合がある なお、評価の配分は「成績評価方法・基準」に示したとおりとする。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業態度)			10		
授業時間中に課す課題(リアクションシート)			40		
期末のレポート課題			50		
教科書					
教科書1	教員作成のプリントを使用する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					

参考書名1	特に指定しない		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>大阪歴史博物館勤務、学芸員(工芸史・染織・服飾史担当)</p> <p>工芸史を専門としています。染織・服飾史の研究をライフワークとしており、染織品の研究としては、大阪随一の両替商で豪商として知られた鴻池家が所蔵していた「名物裂」と呼ばれる染織品についての調査研究のほか、「上代裂」と呼ばれる法隆寺や正倉院に伝来した染織品の調査研究を行ってきました。現在は、近代の大阪を中心として取引された「捺染プリント」についての研究も手がけています。博物館での学芸員としての仕事では、工芸全般について研究し、なかでも近代工芸と茶の湯工芸についての調査研究を広範に手がけています。</p> <p>服飾関連の仕事(展覧会の企画運営)としては、2010年に大阪歴史博物館で開催した「華やぎの装い 鴻池コレクション展」において、鴻池家の女性たちの暮らしを彩った小袖などの華やかな衣装や婚礼調度などを紹介したほか、オーストラリア・メルボルンでの KIMONO 展も担当してきました。また、2014年に開催した「意匠を読み解く 小袖の魅力」展では、きもの(小袖)の文様に込められた意味を丁寧に読み解くことで、身に纏う“美術品”であった小袖とそこに込められた美意識、そして美しい小袖の製作に腐心した職人の技に注目して“小袖をみる”ことを提案しました。昨年には大阪・心齋橋で260年間営業した呉服商・小丸丸に関する展覧会(「心齋橋ときもの展」)も手がけました。</p> <p>所属外の仕事としては、2024年に大阪中之島美術館の特別展「決定版！ 女性画家たちの大阪」において「描かれたキモノ —女性画家たちがみた大阪の〈最先端〉ファッション—」と題した講演会を行ったほか、【OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK】(YouTubeによる講演会)において「おおさか“派手好き”の真実を探る」と題したお話をさせていただいたり、2025年に大阪中之島美術館にて開催された上村松園展の服飾や髪型に関するアドバイザーも務めました。</p> <p>こうした経験を踏まえ、日本の服飾文化やその拡がりについて幅広く講義していきます。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義のガイダンスならびに日本服飾史の概要 ・「服飾」とはなにか		
2	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響 ・飛鳥時代から奈良時代の服飾と中国および朝鮮半島からの影響について		
3	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響 ・中国および朝鮮半島からの影響について		
4	平安時代から鎌倉時代の服飾 ・束帯と女房装束の変遷		
5	武家の台頭と服飾の変容 ・武家に好まれた服飾について		
6	桃山時代の服飾		

	・桃山時代に流行した服飾とそのデザインならびに加工技術について
7	江戸時代の服飾と諸工芸 ・江戸時代の服飾の大まかな変遷と服飾以外の諸工芸のデザイン傾向、両者の異同について考える
8	江戸時代前期の服飾 ・江戸時代前期の服飾の変遷や加工技術について論じる
9	江戸時代中期の服飾 ・江戸時代中期の服飾の変遷や加工技術について論じる
10	江戸時代後期の服飾 ・江戸時代後期の服飾の変遷や加工技術について論じる
11	江戸時代の大阪の服飾 ・江戸時代後期を中心に、江戸地域とは異なる大阪の服飾の好みを探る
12	江戸から明治の「舶来趣味」(外国染織の利用、相関性) ・江戸時代から明治時代に多く舶載された諸外国の染織について知り、これらの染織品が日本の服飾にどのような影響を与えたのかについて考える
13	近代の服飾① ・明治時代の新政府主導で推進された西洋化が人々の服飾にどのような影響を与えたのか。「きもの」「洋服」「和服」という語の成立にも注目しつつ論じる
14	近代の服飾② ・大正から昭和初期の「東京」地域と「大阪」地域の服飾流行の相違や共通点について、同時期に製作されたきもに加え、多彩な絵画作品などを参照することでより理解を深めていく
15	服飾史講義のまとめ ・講義内容を振り返り、日本の服飾の成立過程とあり方やその多様性について振り返る

科目名	ガラス工芸論	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	穂吉学、佐々木雅浩				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸の歴史の変遷、素材としての特徴、技法に至るまで幅広く考察しながら、現代ガラス、将来へのガラスへと結びつけて行く。					
授業概要					
PCプレゼンテーションや動画による講義と、参考作品を実際に手で触って実感してもらいながら授業を進める。学生にはリサーチ発表とレポート課題提出を必須とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
リサーチ発表			60		
レポート課題			30		
積極的な授業態度			10		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	世界ガラス工芸史				
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男編		
参考書名2	「自分だけの答え」が見つかる13歳からのアート思考				
出版社名	ダイヤモンド社	著者名	末永幸歩		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

佐々木雅浩(集中講義担当)愛知教育大学教授
現代ガラス造形作家である教員が、国内外で広く制作活動と作品発表を行ってきた経験を活かし、美術作品の見方、ガラスの特性、制作技法、将来性について授業する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガラス技法論Ⅰ ガラスの制作技法と設備見学ガイダンス
2	図書館見学大学の蔵書を把握する(期末レポートあり)
3	ガラス工芸史Ⅰ 古代
4	ガラス工芸史Ⅱ 中世
5	ガラス工芸史Ⅲ 近代
6	ガラス技法論Ⅱ 素材としての特徴(ひずみ・徐冷・電気炉焼成プロセス)
7	現代ガラスの文脈Ⅰ 20世紀美術現代彫刻
8	現代ガラスの文脈Ⅱ スタジオグラスムーブメント
9	現代ガラスの文脈Ⅲ「工芸」としてのガラス(日本の美「茶の湯」の発展とその歴史)
10	芸術家・中川幸夫のドキュメンタリー鑑賞現代美術と華道とガラスの接点
11	リサーチプレゼン制作
12	リサーチプレゼン制作
13	リサーチプレゼン発表
14	リサーチプレゼン発表
15	リサーチプレゼン発表レポート提出『芸術に関する本を読んで』4000字
16	<集中講義・1日目>美術作品鑑賞方法Ⅰガイダンス
17	<集中講義・1日目>美術作品鑑賞方法Ⅱ美術史
18	<集中講義・1日目>美術作品鑑賞方法Ⅲ工芸史
19	<集中講義・1日目>美術作品鑑賞方法Ⅳ世界ガラス工芸史
20	<集中講義・1日目>美術作品鑑賞方法Ⅴ日本ガラス工芸史
21	<集中講義・2日目>吹きガラスデモⅠ
22	<集中講義・2日目>吹きガラスデモⅡ
23	<集中講義・2日目>自作品について
24	<集中講義・2日目>ガラス工芸の現在
25	<集中講義・2日目>ガラス技法論Ⅲ技法の発展
26	<集中講義・3日目>ガラス材料学
27	<集中講義・3日目>ガラス工業の世界
28	<集中講義・3日目>制作のための環境づくり
29	<集中講義・3日目>卒業後の進路紹介
30	<集中講義・3日目>グループワーク・記述試験